

年 2004 まほろん

年報二〇〇四 福島県文化財センター 白河館

報

福島県文化財センター

〔財〕福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター 白河館



〔財〕福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター 白河館





入館者10万人達成



鉄づくり - 舞い上がる火の粉 -

年報2004の発刊によせて

館長 藤本 強

「まほろん」3年目、平成15年度の「まほろん」についてのいろいろなことを記録するのがこの年報の目的です。「まほろん」の一年一年の活動を詳細に記録していくことが『まほろん』の歴史を綴ることになります。

平成15年度『まほろん』は3年目を迎えいろいろなことがありました。その中でももっとも大きなことは、平成16年2月28日に予定よりも半年も早く入館者が10万人を超えたことです。10万人を超えるのには3年以上はかかると思っていたのですが、2年半ちょっとでこの数を達成することができました。たいへんに嬉しいことです。多くの県民に支持していただいたことを館員一同心から感謝いたします。

夏の展示では、「よみがえり - FITの昔むかし - 」を採りあげました。茨城県、栃木県の多くの関係者のご支援とご協力のもとに展覧会を開くことができました。また会期中には、3県の考古学界の代表的な方々にお集まりいただき、本地域をどのように捉えるかをテーマにして座談会を開きました。県域を越えて共同活動をした初めての試みです。

11月1・2の両日には、「まほろん」の重要な課題である復元研究の一環として「鉄づくり」に挑みました。砂鉄と木炭を原料にして復元した製鉄炉を使って30kgを超える量の鉄を作ることができました。これには製鉄炉に風を送る「踏みふいご」と呼ばれる送風装置を動かすのに700人以上の方々が夜を徹して参加されました。多くの人々の参加を得ながら復元作業を進めていく「まほろん」の姿勢が受け入れられたものと思います。有難うございました。

このほかにも多くのことがありました。ボランティアもようやくその活動にも慣れ、独自のさまざまな活動をするように成長しています。体験活動も項目を少しずつ入れ替えながら、伝統を受け継ぐことに努めています。

引き続き「まほろん」の活動に参加して下さることをお願いいたします。

目 次

第1章 まほろんの沿革	1	3. 館外体験学習支援事業	13
1 開館までのあゆみ	1	6 常設展事業	14
2 開館後のあゆみ	1	7 企画展事業	17
第2章 平成15年度組織と職員	2	1. まほろん夏のてんじ 「よみがえり - F [ふくしま] I [いばらき] T [とちぎ] の昔むかし - 」.....	17
1 まほろんの組織	2	2. まほろん秋のてんじ 「ふくしまの重要文化財 - 考古資料 奈良・平安時代編 - 」.....	21
2 職員名簿	2	3. まほろん春のてんじ 「新編陸奥国風土記 卷之三 安積郡」.....	22
第3章 平成15年度予算	3	4. 復元研究	23
1 一般会計	3	8 ボランティア運営事業	25
2 物品販売特別会計	3	1. 登 録	25
第4章 平成15年度事業の概要	4	2. 活動内容	25
1 管理運営	4	3. ボランティア受け入れ体制	25
1.1 運営協議会	4	4. ボランティア担当者の設置	25
2. 出 版 物	4	5. ボランティア研修	25
2 資料管理事業	5	6. 開館2周年記念イベント	26
1.1 収蔵資料数一覧	5	第5章 平成15年度入館者統計	27
2. 資料貸出し	5	1 月別入館者数	27
3. 資料閲覧	6	2 区分別利用状況	27
3 情報発信事業	7	3 団体利用状況	28
1.1 ホームページによる情報発信	7	第6章 まほろんの施設の概要	29
2. データベースによる情報提供	7	第7章 まほろんの条例・規則	31
3. 研究紀要	7	1 条 例	31
4. まほろん通信	8	2 条例施行規則	31
5. 館長講演会	8		
6. 文化財講座	8		
4 研修事業	9		
1.1 研修事業実施の概要	9		
2. 実 績	9		
3. 研修実施状況	9		
4. 今後の課題	11		
5 体験学習事業	12		
1.1 常時体験型	12		
2. 募 集 型	12		

第1章 まほろんの沿革

1 開館までのあゆみ

平成6年度
福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度
「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成9年度
基本設計

平成10年度
実施設計・用地取得・造成工事

平成11年度
造成工事・建築工事

平成11年11月
施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成12年3月 シンボルマーク・ロゴマークの決定

平成12年度
建築工事・環境整備工事・野外展示工事・屋内展示工事

平成13年3月27日 福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年度
屋内展示工事

平成13年4月1日 福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

2 開館後のあゆみ

平成13年7月15日
福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成13年8月5日
開館記念イベント「まるごと体験まほろろん」開催

平成13年8月17日 入館者1万人到達

平成14年1月26日 入館者3万人到達

平成14年7月21日
開館1周年記念イベント「まほろん1周年だよ！ボランティア2002」開催

平成15年7月12日～8月24日
まほろん移動展「新編陸奥国風土記 卷之二 石背郡」須賀川市立博物館にて共催

平成15年7月19日～9月7日
平成15年度まほろん夏のてんじ「よみがえり - F(ふくしま)I(いばらき)T(とちぎ) - 」開催

平成15年7月20日
開館2周年記念イベント「まほろん2周年だよ！ボランティア2003」開催

平成15年7月27日
平成15年度まほろん夏のてんじ記念座談会「考古学が解き明かす福島・茨城・栃木の交流」開催

平成15年10月18日～11月24日
平成15年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財 - 考古資料 奈良・平安時代編 - 」開催

平成16年2月28日
開館以来の入館者が10万人到達

平成16年3月13日～5月16日
平成15年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 卷之三 安積郡」開催

年表

94年度 福島県文化財保護審議会が「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

96年度 「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

97年8月 基本設計（～98年3月）

98年5月 実施設計（～99年3月）

99年8月 着工

00年10月 竣工

01年3月 環境整備工事完了

01年6月 展示工事完了

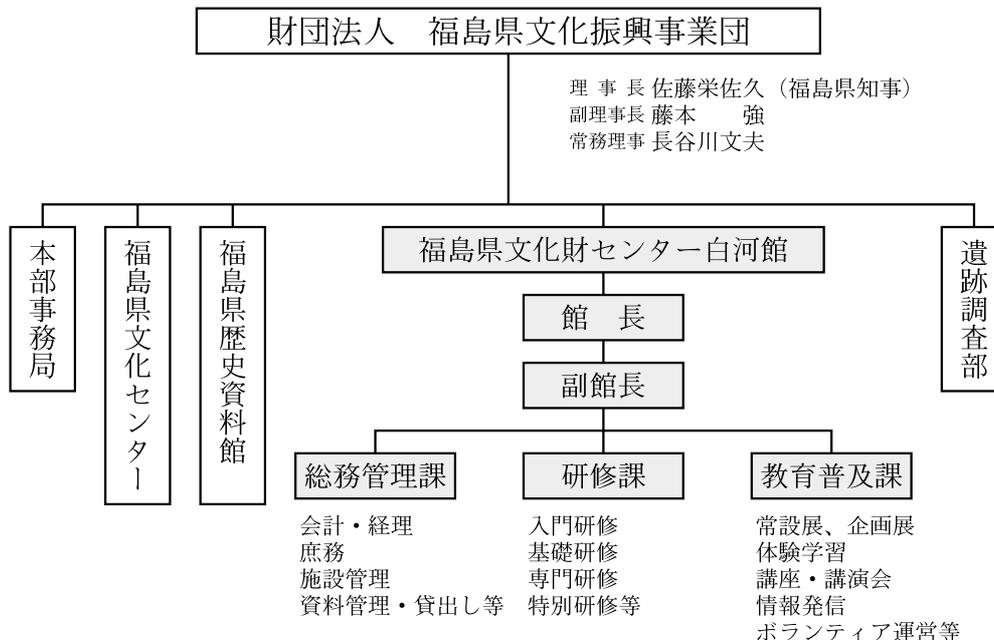
01年7月 開館

工期 着工 平成11年7月12日
完成 平成12年10月16日

第2章 平成15年度組織と職員

福島県文化財センター白河館は、福島県教育委員会から財団法人福島県文化振興事業団に管理運営業務が委託された事業を行う。財団法人福島県文化振興事業団の組織及び福島県文化財センター白河館の組織・業務の概要は以下のとおりである。

1 まほろんの組織



2 職員名簿

職名	氏名	職名	氏名	
館長	藤本 強	課長	鈴鹿 良一	
副館長	横山 公一	主任学芸員	森 幸彦	
総務管理課	課長(兼務)	横山 公一	主任学芸員	吉田 秀享
	主査	白坂 吉見	主任学芸員	藤谷 誠
	主任学芸員	吉田 功	主任学芸員	鈴木 晴夫
	主事	枝松 雄一郎	副主任学芸員	今野 徹
研修課	課長	大越 道正	副主任学芸員	高橋 満
	専門学芸員	石本 弘	職員数 17名 (内訳) 派遣職員 6名 財団職員 11名	
	専門学芸員	松本 茂		
	主任学芸員	五十嵐 敏裕		
副主任学芸員	青山 博樹			

定数外

アテンダント(囑託) 5名

郡 司 知子
緑 川 千彩子
甲 賀 寿美恵
佐久間 育子
小 黒 加容子

臨時事務補助員 2名

近 藤 圭子(～7月)
柳 沼 美和(8月～)
荒 木 瞳(～11月)
印 田 さやか(12月～)

第3章 平成15年度予算

1 一般会計

(単位:円)

収 入			支 出		
大 科 目	中 科 目	決 算 額	大 科 目	中 科 目	決 算 額
受託事業収入	文化財センター 白河館管理事業	95,000,739	文化財センター 白河館管理委託費	諸謝金	373,200
事業補助金収入	文化財センター 白河館運営事業	162,762,360		旅費交通費	3,046,884
				消耗品費	6,436,799
特定預金収入	退職給与引当金 戻入収入	0		燃料費	366,617
				会議費	27,590
				印刷製本費	4,439,089
				光熱水料費	11,432,927
				修繕料	2,254,779
雑収入	預金利息収入	531		通信運搬費	7,447,514
				手数料	2,298,362
				保険料	382,270
				委託料	40,689,480
				賃借料	15,649,225
			負担金	6,000	
			租税公課	150,003	
			小計	95,000,739	
			文化財センター 白河館運営補助費	報酬	14,712,285
				給料手当	122,258,932
退職手当	0				
福利厚生費(人件費)	16,454,595				
退職手当引当金支出	4,484,960				
福利厚生費(物件費)	407,626				
災害補償費	0				
賃金	3,436,959				
諸謝金	74,200				
旅費交通費	698,650				
交際費	0				
会議費	0				
手数料	165,384				
負担金	69,300				
小計	162,762,891				
合 計		257,763,630	合 計		257,763,630

2 物品販売特別会計

(単位:円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
1. 事業収入		1. 事業費	
物品販売収入	5,240,682	販売物購入費	3,341,799
2. 雑収入		包装・宣伝費	8,700
		自動販売機手数料	345,195
		公衆電話手数料	5,050
		委託販売手数料	21,250
預金利息	12	事務用品費	345,114
3. 繰越金	1,801,150	2. 人件費	
		給与	226,632
前年度繰越金		3. 租税公課費	
		法人税・消費税等	717,401
		4. 長期借入金	
		長期借入金返済	500,000
計	7,413,339	計	5,145,518

第4章 平成15年度事業の概要

1 管理運営

1. 運営協議会

福島県文化財センター白河館の運営に関し、館長の諮問に応じ、各種事業等の企画実施について審議するもので、委員は学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験から6名を委嘱している。

名簿

岡田茂弘	東北歴史博物館長（会長）
渡邊一雄	福島県考古学会顧問（副会長）
齋藤邦光	西白河小中学校連合協議会会長 白河市立白河中央中学校長
和知 延	白河市文化財保護審議会委員 鹿嶋神社宮司
結城光夫	独立行政法人国立少年自然の家 国立那須甲子少年自然の家所長
山崎京美	いわき短期大学助教授

会議

平成15年度第1回運営協議会

日時 平成15年8月22日（金）

場所 福島県文化財センター白河館会議室

議事

- (1) 福島県文化財センター白河館の運営状況について
- (2) 福島県文化財センター白河館の課題、中・長期目標及び平成15年度の目標・事業の展開方向について
- (3) その他

平成15年度第2回運営協議会

日時 平成16年3月19日（金）

場所 福島県文化財センター白河館会議室

- #### 議事
- (1) 平成15年度福島県文化財センター白河館の運営状況について
 - (2) 平成16年度福島県文化財センター白河館事業計画について
 - (3) その他

2. 出版物

- ・福島県文化財センター白河館年報2003
- ・福島県文化財センター白河館研究紀要2003
- ・まほろん通信（VOL.8～VOL.11）



出版物（まほろん通信・年報・研究紀要）

2 資料管理事業

1. 収蔵資料数一覧

(箱)

	遺物	写真	図面	地図・カード類	合計
一般収蔵庫	36,930	2,394	793	503	40,620
特別収蔵庫	380				380
合計	37,310	2,394	793	503	41,000

* 1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

* 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸出し

遺物

(点)

日付	貸出先	貸出目的	資料名	数量
6月13日	東北歴史博物館	特別展「仙台藩の金と鉄」	新地町向田A遺跡出土鋳型	1
			相馬市山田A遺跡出土鋳型	3
6月26日	福島県立博物館	企画展「発掘ふくしま3」	福島市獅子内遺跡出土石器	41
			福島市弓手原A遺跡出土石器・石製品・土偶・木製品	71
			福島市八方塚A遺跡出土縄文土器	1
			福島市小屋館遺跡出土石製品	1
			矢吹町弘法山古墳群出土須恵器・土師器・玉類	25
			白河市一里段A遺跡出土石器	26
			楮葉町大谷上ノ原遺跡出土石器	22
			玉川村江平遺跡出土石器・土師器・須恵器・玉類・木簡・横笛	134
			本宮町山王川原遺跡出土須恵器・土師器・土製品・石製品	49
			いわき市大猿田遺跡出土木製品・木簡	29
			いわき市白岩堀ノ内遺跡出土弥生土器・石器	24
8月26日			須賀川市松ヶ作A遺跡出土弥生土器・石器・鉄製品	12
9月26日	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	企画展「律令国家の誕生と下野国」	原町市鳥打沢A遺跡出土須恵器・鉄滓	13
			原町市大船迫C遺跡出土須恵器	1
			原町市大船迫A遺跡出土須恵器・土師器	2
10月21日	多賀城市埋蔵文化財調査センター	企画展「木とくらし」	玉川村江平遺跡出土横笛	1
10月24日	福島県立博物館	移動博物館「田村地方の歴史」	三春町柴原A遺跡出土土偶	1
12月25日	郡山市立美術館	企画展「原始美術の華縄文土器の造形」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	20
			天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	4
			郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
3月23日	三春町歴史民俗資料館	特別展「三春城と仙道の城」	郡山市宮田館跡出土陶器	1
			合計	483

写真

(点)

日付	貸出先	掲載刊行物等	資料名	数量
4月2日	東北税理士会	「東北税理士会報」	まほろん施設外観	1
4月11日	株式会社 佐藤総合計画	「建築画報VA (VISUAL ARCHITECTURE) 7月号」	まほろん外観・内観・体験学習・イベントほか	10
4月23日	広野町教育委員会	「広野町史 資料編 第一集」	広野町上田郷 遺跡遠景ほか	11
5月9日	株式会社 りいふ・しゅっぱん	進学情報誌「さびあ」6月号	まほろん外観・内観ほか	5
5月20日	株式会社 進和クリエイティブセンター	「ゆうゆうらんど」夏号	体験学習	1
5月21日	福島県立博物館	企画展「発掘ふくしま3」図録・ポスター・パネル等	白河市一里段A遺跡調査写真ほか	30
5月30日	福島県立博物館	企画展「発掘ふくしま3」図録・ポスター・パネル等	矢吹町弘法山古墳群出土装身具ほか	2
6月12日	福島県立博物館	企画展「発掘ふくしま3」図録・ポスター・パネル等	須賀川市松ヶ作A遺跡出土弥生土器・石器・鉄製品	16
6月20日	須賀川市立博物館	平成15年度まほろん移動展広報チラシ	平成15年度まほろん移動展リーフレット掲載写真	1
7月10日	多賀城市埋蔵文化財調査センター	多賀城市市川橋遺跡29次調査出土横笛記者発表資料	玉川村江平遺跡出土横笛	1
7月10日	福島県立博物館	企画展「発掘ふくしま3」図録・ポスター・パネル等	まほろん外観・一般収蔵庫・体験学習・講座等開催状況	5
8月16日	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	企画展図録「律令国家の誕生と下野国」	原町市大船迫A遺跡出土須恵器・土師器・羽口ほか	5
8月16日	株式会社 創童舎	東北電力広報誌「白い国の詩」・HP「白い国の詩」	新地町向田A遺跡出土鋳型	2
8月21日	船引町教育委員会	文化財読本「船引の歴史と文化財」	野外展示「奈良時代の家」	14
8月21日	株式会社 小学館	「考古資料大観 第3巻 弥生・古墳時代 土器」	郡山市駒形A遺跡出土土師器	12
9月5日	歴史春秋出版株式会社	歴春ふくしま文庫50「ふくしまの古墳時代」	国見町下ノ内遺跡出土土師器・須恵器ほか	4
9月5日	郡山市立美術館	企画展図録「縄文土器の造形」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	25
9月5日	早稲田大学會津八一記念博物館	企画展「縄文の精華・亀ヶ岡文化展」図録・パネル	飯館村岩下B遺跡1号住居跡	1
9月25日	東洋羽毛工業株式会社	白河工場見学者への周辺施設案内	まほろん施設外観	1

日付	貸出先	掲載刊行物等	資料名	数量
9月25日	多賀城市埋蔵文化財調査センター	企画展「木と暮らし」パネル	玉川村江平遺跡出土横笛	1
10月7日	財団法人福島市振興公社	「摺上川ダム遺跡発掘調査成果パンフレット」他	福島市弓手原A遺跡遠景ほか	21
10月12日	岐阜放送	テレビ番組「じょうず・悠遊独歩～笛師・田中敏長～」	玉川村江平遺跡出土横笛	1
11月2日	遺跡調査部	研究協議会「初期群集墳と集落の様相」発表資料	玉川村江平遺跡遠景ほか	42
11月12日	遺跡調査部	「遺跡の案内人」登録前研修	いわき市大猿田遺跡出土木簡ほか	51
11月15日	株式会社福島中央テレビ	県政広報番組「こんにちはふくしま」	原町市大船迫A遺跡	3
12月13日	白河市教育委員会	「白河市史 通史編1」	野外展示「奈良時代の家」ほか	3
12月20日	三春町歴史民俗資料館	特別展図録「三春城と仙道の城」	郡山市宮田館跡出土陶器ほか	10
12月25日	郡山市立美術館	企画展「縄文土器の造形展」パネル	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡と磐梯山	1
1月6日	株式会社 雄山閣	「季刊考古学86号 特集・弥生時代の祭り」	会津坂下町能登遺跡出土土製品	1
1月29日	白河市教育委員会	「白河市史 通史編1」	白河市一里段A遺跡1・4号土坑ほか	4
2月4日	小山市立博物館	企画展「縄文人の知恵と力」図録・パネル・広報誌等	福島市弓手原A遺跡出土剥片ほか	8
2月18日	百済武寧王展実行委員会	特別企画展「百済武寧王と倭の王たち」図録・広報誌等	東村笹内古墳群出土金銅装鏡板付轡ほか	25
2月20日	株式会社 帝国書院	「社会科中学生の歴史-日本の歩みと世界の動き-初訂版」	三角縁神獸鏡復元品ほか	2
3月2日	泉崎村教育委員会	「史跡関和久官衙遺跡」説明板作成	泉崎村関和久遺跡SB01・02・03ほか	4
3月5日	小高町教育委員会	小高町学校副読本「おだかの縄文時代(仮)」	小高町荻原遺跡遠景ほか	3
			合計	327

その他

(点)

日付	貸出先	貸出目的	資料名	数量
6月13日	東北歴史博物館	特別展「仙台藩の金と鉄」	新地町向田A遺跡獣脚シリコン模型	1
			相馬市山田A遺跡獣脚シリコン模型	3
6月26日	福島県立博物館	企画展「発掘ふくしま3」	象嵌鍔・大刀・横笛・木簡・網針復元品	9
10月21日	多賀城市埋蔵文化財調査センター	企画展「木と暮らし」	鉄斧装着復元品、鎌装着復元品、鍬装着復元品	3
			玉川村江平遺跡出土横笛復元品	2
			正倉院横笛復元品、神楽笛	3
			合計	21

3. 資料閲覧

遺物

(点)

日付	閲覧者	閲覧目的	資料名	数量
6月29日	個人	個人研究の資料調査	相馬市段ノ原B遺跡出土石器ほか	29
7月15日	個人	卒業論文作成の資料調査	相馬市善光寺遺跡出土須恵器	64
8月15日	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館職員	企画展の参考資料実見	原町市大船迫A遺跡出土須恵器・土師器・羽口・鉄滓	16
9月9日	個人	卒業論文作成の資料調査	相馬市善光寺遺跡出土須恵器・瓦ほか	286
9月17日	個人	卒業論文作成の資料調査	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	110
11月12日	個人	卒業論文作成の資料調査	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	247
11月13日	遺跡調査部職員・財とちぎ生涯学習文化財埋蔵文化財センター職員	研究協議会「初期群集墳と集落の様相」	玉川村江平遺跡出土土師器ほか	163
11月15日	個人	博士論文作成の資料調査	飯館村岩下A遺跡出土石器ほか	115
11月22日	個人	卒業論文作成の資料調査	原町市長瀬遺跡出土石器ほか	48
11月29日	財大阪府文化財センター職員	共同研究の資料調査・研究	須賀川市大久保A遺跡出土玉類ほか	132
12月10日	個人	調査報告書作成の資料調査	相馬市段ノ原B遺跡出土縄文土器	65
1月15日	三春町歴史民俗資料館職員	特別展借用資料の実見	郡山市宮田館跡出土陶器	1
1月17日	個人	卒業論文作成の資料調査	新地町三貫地遺跡出土石器ほか	704
2月19日	北上市立埋蔵文化財センター職員	調査報告書作成の資料調査	榎葉町馬場前遺跡出土縄文土器ほか	1,313
2月25日	遺跡調査部職員	調査報告書作成の資料調査	小野町小滝遺跡出土縄文土器ほか	232
2月26日	須賀川市教育委員会職員	調査報告書作成の資料調査	泉崎村関和久上町遺跡出土土師器ほか	27
2月28日	「縄文学会」(関東地方縄文研究団体)	調査・研究	福島市獅子内遺跡出土縄文土器ほか	5,754
3月9日	財ひたちなか市文化・スポーツ振興公社センター職員	調査報告書作成の資料調査	飯館村松ヶ平A遺跡出土縄文土器ほか	184
3月9日	個人	個人研究の資料調査	原町市長瀬遺跡出土石器ほか	104
3月17日	財埼玉埋蔵文化財調査事業団職員	資料調査	泉崎村関和久遺跡出土円面硯ほか	43
3月24日	鹿瀬町教育委員会職員	出土資料との比較・検討	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	52
			合計	9,689

その他

(点)

日付	閲覧者	閲覧目的	資料名	数量
4月22日	石川町教育委員会職員	町史編纂	国営総合開発事業母畑地区計画平面図	3
			合計	3

3 情報発信事業

1. ホームページによる情報発信

4月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間アクセス数は41,071件で、月平均3,422件となっている。年度ベースでは、昨年度よりも9,204件増加している。

月	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	3,258	49,887
5月	3,696	53,583
6月	3,786	57,369
7月	3,892	61,261
8月	3,966	65,227
9月	3,576	68,803
10月	3,501	72,304
11月	3,282	75,586
12月	2,486	78,072
1月	2,780	80,852
2月	2,962	83,814
3月	3,886	87,700

2. データベースによる情報提供

a アクセス数の推移

平成15年度のアクセス数を下表に示した。データベースの年間アクセス数は25,925件、月平均アクセス数は2,160件となっている。平成13年度の月平均アクセス数が20,939件であり、約5,000件程増加している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
遺跡	597	728	933	870	738	902
遺物	268	353	384	358	354	354
写真	442	481	655	362	506	645
文献	87	101	151	111	148	226
合計	1,394	1,663	2,123	1,701	1,746	2,127
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遺跡	2,654	1,892	1,108	670	861	638
遺物	346	425	921	861	697	323
写真	366	675	270	333	444	280
文献	72	459	265	217	195	199
合計	3,438	3,451	2,564	2,081	2,197	1,440

b 新規データベースの公開

平成13年度には構築されていたが、公開していなかった文献データベースについて、11月から当館に入力されている分について公開を開始した。(初期データ数は6,574件)

平成13年度から入力してきた遺物写真について「遺物写真データベース」として、12月から公開を開始した。(初期データ数は、2,086件)

c データ入力

種類	入力数	累計
遺跡(基本データ)	10	13,685
遺跡(調査情報)	87	3,493
遺物	1,359	204,120
遺物写真	2,086	2,086
写真	6,339	42,830
文献	6,574	6,574
合計	16,455	272,788

3. 研究紀要

研究紀要目次

- 研究論考 -

福島県内出土古墳時代象嵌資料の研究復元製作
(研究復元プロジェクトチーム)

〔1〕「古墳時代象嵌資料の研究復元制作」の
企画(森 幸彦)

〔2〕古墳時代の鉄事情からみた象嵌技術
(鈴木 勉)

〔3〕「古墳時代象嵌資料の研究復元制作」の
再現実験の課題(鈴木 勉)

〔4〕福島県内出土の象嵌資料(森 幸彦)

〔5〕研究復元の目的と手法(押元信幸)

〔6〕弘法山5号横穴墓出土針葉文銀象嵌大刀
(押元信幸)

〔7〕弘法山5号、中田、郭内8号各横穴墓から
出土した象嵌遺物の復元(鈴木 勉)

〔8〕郭内横穴墓出土鏝の復元制作及び疑問に
ついて(木下哲人)

〔9〕八幡横穴墓群出土銀線象嵌鏝の復元制作
(松林正徳)

〔10〕八幡2号横穴墓出土心葉文象嵌鏝の文様
復元(松林正徳)

〔11〕八幡2号横穴墓出土心葉文象嵌鏝の復元
について(黒川 浩)

〔12〕古墳出土鉄製鏝の着色法についての可能
性を探る(増子浩代)

〔13〕八幡23号横穴墓出土大刀の花形文象嵌刀
身の復元(押元信幸)

〔14〕「古墳時代象嵌資料の研究復元制作」の
技術史的成果(鈴木 勉)

〔15〕象嵌復元遺物からのメッセージ
(森 幸彦)

縄文時代中期における火災住居の性格 - 馬場前
遺跡・上ノ台A遺跡の事例分析から -

(小暮伸之)

- 文化財報告 -
- 構造調査・クリーニングから得られた調査成果
()- 赤彩土器の顔料の蛍光X線分析 -
(奥山誠義)
- 文化財データベースについて - その3 写真と
文献データベースについて - (藤谷 誠)

4. まほろん通信

4月15日、7月15日、10月15日、1月15日の
4回、5,000部を発行した。概要は以下となっ
ている。

- a まほろん通信VOL.8
 - ・ガラス玉を作る
 - ・研修課より(まほろん研修今年の予定)
 - ・総務管理課より(平成14年度入館者30,000
人突破)
 - ・体験学習(土偶・土面作り、竹笛をつく
りました)
 - ・シリーズ復元展示(鋳型からみた鉄製品
の復元その1)
 - ・今年度の行事予定
- b まほろん通信VOL.9
 - ・見どころ案内ツアー開始
 - ・体験学習(今年も盛況)
 - ・ボランティアイベント(「まほろん2周年
だよ! ボランティア2003」)
 - ・まほろん夏のとんじ(よみがえり-F I
Tの昔むかし)
 - ・研修課より(第1回「体験学習支援コー
ス」)
 - ・総務管理課より(まほろんショップの人
気商品)
- c まほろん通信VOL.10
 - ・カラムシから布をつくる
 - ・体験学習(第3次まほろん探検隊、「弥生
グルメ祭」のおしらせ)
 - ・まほろん秋のとんじ(ふくしまの重要文
化財 - 考古資料 奈良・平安時代編 -)
 - ・シリーズ復元展示(鋳型からみた鉄製品
の復元その3)
 - ・研修課より(「教職員のための発掘体験研
修」)
 - ・総務管理課より(バックヤードツアー)
- d まほろん通信VOL.11
 - ・本年度のおでかけまほろん

- ・鉄づくりイベント報告1
- ・まほろん春のとんじ(新編陸奥国風土記
- 巻之三 安積郡 -)
- ・体験学習(弥生グルメ祭)
- ・研修課より(無形の文化財コース、「時
代別研究コース」)
- ・総務管理課より(新職員紹介)



5. 館長講演会

月 日	テ - マ	参加 人数
4月26日	第1回「日本文化の多様性」	27
5月17日	第2回「北の文化・北海道を中心として」	17
6月28日	第3回「南の文化・南島を中心として」	19
10月25日	第4回「各地の考古学調査・ヨーロッパ」	16
11月29日	第5回「各地の考古学調査・西アジア」	20
12月20日	第6回「各地の考古学調査・シベリア」	17

6. 文化財講座

月 日	テ - マ	参加 人数
1月25日	第1回「原始・古代の「衣」」	13
2月22日	第2回「原始・古代の「食」」	29
3月28日	第3回「原始・古代の「住」」	24

4 研修事業

1. 研修事業実施の概要

平成15年度の研修は、入門研修7回、基礎研修6回、専門研修7回、特別研修5回を実施した。これらの期日指定の研修以外に、受講者の希望に応じて行う臨時館内研修を16回、職員派遣研修を13回実施している。平成15年度に研修を実施した日数は延べ133日、研修の参加者は315人である。

2. 実績

平成15年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。最も参加の多かった市町村等で文化財の保護に携わる職員は、137人で全体の43.5%占めている。前年度より51人ほど多くなっている。次に多かったのが文化財関係の市民ボランティアの124人で39.4%を占め、昨年度の教職員参加者を超えている。教職員の参加者は43人で13.7%となっている。

その他一般人・学生が11人で3.5%であった。市町村の文化財保護に携わる職員の参加が増えてきたことは、まほろん研修がこれらの人々に周知されてきていると評価できる。教職員の参加者は前年度とほぼ同じで横ばい状態だが、本年度より活動を開始した「遺跡の案内人」ボランティアの参加が目立った。

3. 研修実施状況

(1) 入門研修

入門研修は、下表に示したとおり資料整理・土器実測・埋蔵文化財事務・土坑調査・表面調査の各研修をそれぞれ1回ずつと、入門考古学講座を2回実施した。

資料整理コースは、発掘調査で出土した遺物や写真・実測図などの記録類は速やかに公開できるように、適切な整理・保管がなされなければならない。この研修は資料整理の方法や手順について実習等をとおして習得する研修である。研修期間は4月22～25日の4日間行った。講師は研修課職員が当たり、参加者は市町村の文化

区分	研修名	内 容	期 間	場 所
入 門 研 修	資料整理コース	遺物・図面・写真整理の基本的研修	4月22日～4月25日	館内
	土器実測コース	土師器・須恵器の観察と実測方法の研修	6月25日～6月27日	館内
	入門考古学講座	考古学の基礎や福島の各時代に関する入門的な研修	7月5日	館内
	埋蔵文化財のための事務コース	埋蔵文化財事務を円滑に行うための研修	9月25日～9月26日	館内
	土坑調査コース	土坑の調査記録方法の研修	11月19日～11月21日	鹿島町
	入門考古学講座	考古学の基礎や福島の各時代に関する入門的な研修	12月6日	館内
	表面調査研修	表面調査の方法の研修	3月2日～3月5日	白河市
基 礎 研 修	遺物包含層調査コース	遺物包含層の調査・記録方法の研修	7月8日～7月11日	小高町
	竪穴住居跡調査コース	竪穴住居跡の調査・記録方法の研修	10月7日～7月10日	会津高田町
	試掘調査コース	試掘調査と遺跡範囲の決定の方法を学ぶ研修	10月21日～10月24日	船引町
	遺構調査技術コース	さまざまな遺構の調査技術を習得する研修	1月15日～1月16日	館内
	保存処理コース	金属・有機質遺物の保存処理の研修	2月3日～2月6日	福島市
報告書作成コース	見やすく分かりやすい調査報告書を作るための研修	2月18日～2月19日	館内	
専 門 研 修	史跡整備コース	史跡整備のための調査・記録・事務手続きの研修	6月12日～6月13日	白河市
	特殊遺構調査コース	特殊遺構の調査・記録方法の研修	8月26日～8月29日	会津坂下町
	古墳墳丘調査コース	古墳の墳丘調査に関する調査方法や記録方法の研修	9月9日～9月12日	郡山市
	専門考古学講座	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	10月11日	館内
	時代別研修	時代別の専門的研修	12月10日～12月11日	館内
	官衙遺跡研究コース	官衙遺跡の特徴と調査の方法	1月27日～1月30日	館内
	専門考古学講座	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	2月14日	館内
特 別 研 修	体験学習研修1	文化財を教材とする方法を学ぶ研修	5月17日～5月18日	館内
	体験学習研修2	文化財を教材とする方法を学ぶ研修	7月23日～7月25日	館内
	教職員発掘調査コース	発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に役立てる研修	8月6日～8月8日	二本松市
	無形の文化財コース	無形の文化財の基礎知識と調査方法概論	11月12日～11月14日	館内・矢吹町
	体験学習研修3	文化財を教材とする方法を学ぶ研修	11月29日～11月30日	館内
	市町村職員長期研修	文化財行政担当者としての全般的な知識を学ぶ研修	臨時的	館内
	臨時館内研修	遺物実測など要望に応じ個別に白河館で対応する研修	臨時的	館内
職員派遣研修	市町村等の要請によって随時職員を派遣して行う研修	臨時的	館外	

平成15年度文化財研修実施一覧

財担当職員や一般市民など4名だった。土器実測コースは遺跡から出土した土器の実測方法を学ぶ研修である。6月25～27日の3日間、研修課職員が講師となって実施した。文化財担当職員が3名参加し、土器実測の基礎を研修した。入門考古学講座は、年2回開催している。第1回は7月5日に研修課職員が講師を務め、「縄文時代のすまい」を題材にして講義を行った。参加者は28名だった。第2回は12月6日に福島大学行政社会学部の菊地芳朗助教授を講師に迎え、「古墳時代のはなし」を演題に講義を実施した。23名の参加者だった。埋蔵文化財のための事務研修は、9月25・26日の2日間実施した。県教育庁生涯学習・文化スポーツ領域文化財グループの大平好一氏と県文化振興事業団遺跡調査部の斎藤幹夫氏を講師に迎え、埋蔵文化財保護行政の実際や遺跡調査の際の安全管理について講義を行った。

土坑調査コースは、鹿島町割田C遺跡の発掘調査現場を研修会場に11月18～21日の4日間にわたって実施した。研修課職員が講師になり、土坑の基本的な調査方法について研修した。参加者は21名だった。表面調査コースは、遺跡調査の初期段階に行われる表面調査の方法を習得する科目である。研修課職員が講師になり、参加者2名と共に3月2～5日の4日間、白河市本沼地区で実地研修を行った。

(2) 基礎研修

基礎研修は、遺物包含層調査・竪穴住居調査・遺構調査技術・保存処理・報告書作成の各研修を実施した。

遺物包含層調査コースは7月8～11日の4日間、小高町浦尻貝塚の発掘調査現場を研修会場にして、遺物包含層の基礎的な調査方法を学習した。参加者は4名で、研修課職員が講師を務めた。竪穴住居調査コースは会津高田町油田遺跡の調査現場を研修会場として竪穴住居跡の調査方法を実習した。期間は10月7～10日の4日間で参加人数は25名、研修課職員が講師となった。試掘調査コースは、10月21～24日の4日間、船引町の前田遺跡で行った。遺跡の一部を発掘して遺跡の範囲や営まれた時代を調査する研修である。研修課職員が講師を務め、41名の参加者が調査方法を実習した。

遺構調査技術コースは、1月15・16日の両日、

自然災害によって埋没した遺跡の調査方法を題材に、群馬県子持村教育委員会の石井克己氏、会津坂下町教育委員会の吉田博行氏、郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団の柳沼賢治氏を講師に迎え研修を実施した。参加者は10名だった。

保存処理コースは、金属質遺物や有機質遺物を劣化から守る保存処理技術について学ぶ研修である。県文化振興事業団遺跡調査部の奥山誠義氏が講師を務め、2月3～6日の4日間、遺跡調査部の渡利分室で研修を実施した。報告書作成コースは、報告書の原稿執筆、挿図・図版の作成、編集などの一連の作業を学習する研修である。2月18・19日の2日間館内で実施した。

(3) 専門研修

専門研修では、史跡整備・特殊遺構調査・古墳墳丘調査・時代別・官衙遺跡研究の各研修と専門考古学講座を2回実施した。

史跡整備コースは史跡整備を行うための諸手続きや範囲確認などの発掘調査の実際を習得する研修である。6月12日・13日の両日に白河市の谷地久保古墳の調査現場を会場として実施した。特殊遺構調査コースは調査例の少ない特殊な遺構の調査方法を学ぶ研修である。8月26～29日の4日間、会津坂下町の陣が峯城跡で火災に見舞われた建物跡の調査を研修した。参加者は4名だった。古墳墳丘調査コースは9月9～12日の4日間、郡山市大安場古墳の調査現場を会場にして、古墳の構築について13名の参加者が研修した。

専門考古学講座は考古学のより深い知識を得たいと考えている受講者を対象とした研修で、年2回実施した。1回目はいわき市の馬目順一



教職員発掘調査コースのようす

氏を講師に迎え、「福島県の弥生時代を考える 墓のうつりかわり」をテーマに講演していただいた。参加者は32名だった。2回目はまほろんの藤本強館長による「遺跡の保存・整備・復元」をテーマに講座を実施した。参加者は19名だった。1回目は10月11日に、2回目は2月14日にそれぞれ実施した。

時代別研究コースは、まほろん所蔵の資料を利用して行う研修で、今年度は縄文時代早期の土器編年を遺跡調査部の山内幹夫氏が講義した。12月10・11日の両日に行い、参加者は13名だった。

官衙遺跡研究研修は、奈良文化財研究所の山中敏史氏を講師に迎え、官衙遺跡の調査・研究の方法や、資料の分析方法などについて研修する講座である。今年は1月27～30日の4日間行い、11名が受講した。山中氏による官衙関連遺跡の講義のほか、遺跡調査部の木本元治氏が「県内の官衙関連遺跡」について、須賀川市教育委員会の皆川隆男氏が「須賀川市矢ノ目A遺跡」について、塩川町教育委員会の和田聡氏が「会津盆地の官衙関連遺跡」に関してそれぞれ事例報告を行った。

(4) 特別研修

特別研修は、体験学習支援・教職員発掘調査・無形の文化財の各コースのほか、不定期の臨時館内研修・職員派遣研修・市町村職員長期研修を実施した。

体験学習支援コースは、学校や公民館などで行う体験学習の指導者のために設けた研修で、今年度は3回実施した。1回目は5月17・18日の2日間、2回目が7月23～25日の3日間、3



体験学習支援コースの様子

回目が11月30日に行い、参加人数は合わせて20名だった。「マイギリ」と「アンギン編み」の道具を身近な材料で作る方法や、教材としての使用方法を学習した。

教職員発掘調査コースは、教職員や文化財保護に関わる人たちに発掘調査を体験してもらう研修である。今年度は二本松市二本松城跡の発掘調査現場を会場に、8月6～8日の3日間行われた。参加者は22名だった。

無形の文化財コースは、無形の文化財を取り扱う市町村文化財担当者や民俗関係の資料館の学芸員を対象に新設した講座である。今回は11月12～14日の3日間行い、矢吹町明新地区に伝わる「明新獅子舞」の保存に関する聞き取り調査を中心に、無形の文化財保存方法について研修した。

臨時館内研修は16回実施し、24名の人達が受講した。内容は遺物の写真撮影研修、石器の観察研修、土器の分類に関する研修などであった。職員派遣研修は会津高田町油田遺跡の発掘調査に関わる研修をはじめとして13回の研修を実施し、43名が受講した。発掘調査方法の研修では、他に白河市・船引町などに発掘調査に職員を派遣した。調査に関する研修以外では西郷村で土器作り研修を行った。

4. 今後の課題

実績の項でも触れたように、研修参加者は昨年に比べ増加している。これはまほろんの研修が各市町村の文化財担当職員に周知され、ある程度評価されていると考えられる。参加者の増加につながっているもう一つの要因に、文化財関係の市民ボランティアの存在がある。まほろんボランティアの活動にも見られるように、文化財の保護意識を高めるために、市民との連携はいまや不可欠である。まほろん研修でもボランティアが求める知識を提供できるように努めたい。また、教職員も「教職員発掘調査コース」や体験学習支援コースに一定量の参加が認められる。しかし、参加者に記入をお願いしているアンケートによると、研修事業をはじめて3年になる現在に至っても、その存在を知らなかったという意見が多い。県南地域を中心とした各教育機関等への個別訪問など、きめ細かな広報活動が求められよう。

5 体験学習事業

平成15年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下のとおりである。

1 常時体験型

(1) 個人対応メニュー

体験活動室において、個人を対象に実施する体験学習で、2週間毎に2メニューを入れ替えたが、12月9日よりアとセをセットメニューとした。

- | | |
|----------|-----------|
| ア．勾玉づくり | イ．アンギン編み |
| ウ．土器拓本 | エ．土器にさわる |
| オ．火おこし | カ．時代衣装を着る |
| キ．クレヨン象嵌 | ク．ガラス玉づくり |
| ケ．土器づくり | コ．七夕短冊づくり |
| サ．原始機 | シ．昔の玩具で遊ぶ |
| ス．貝輪づくり | セ．管玉づくり |

セは新メニューで、勾玉小を3等分し、底面中央に紐を通すための径3mmの穴を空けた。勾玉と同じ要領で管玉に仕上げる。材料費は400円で提供した。

アはケ実施時以外は通年で行ったため体験者数が多い。それ以外は年間2回から3回実施した。なお、各メニューを週割りにすると、オが99人、カが95人、シは91人であった。

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	3,386人	火おこし	595人
クレヨン象嵌	408人	時代衣装	381人
ガラス玉	280人	土器づくり	230人
昔の玩具	182人	貝輪づくり	142人
七夕飾り	120人	管玉づくり	78人
土器さわり	70人	土器拓本	40人
原始機	31人	アンギン編み	29人

体験活動室実施状況



管玉づくりのようす

(2) 団体対応メニュー

体験メニューは以下のとおり。

- | | |
|-----------|-----------|
| ア．勾玉づくり | イ．アンギン編み |
| ウ．火おこし | エ．土器にさわる |
| オ．時代衣装を着る | カ．ガラス玉づくり |
- オとカは、先方と当館の事情が合致し特別に行った。

常時体験型メニューの体験者数を昨年度と比較すると、平成14年度13,486人に対して平成15年度は15,551人で、2,065人増加した。体験活動室の体験者数は、6,454人に対して5,972人と初のダウン。これは昨年度通年で行っていたエの人数が約650人減少したことによる。団体対応については、7,032人に対して9,579人と2,547人増加した。ウとエが1,000人超の増加を示した。来館者に占める割合は、39.2%に対して45.6%と6.4%増加した。

内 容	参加者	内 容	参加者
勾玉づくり	5,189人	火おこし	2,849人
土器さわり	1,397人	アンギン編み	82人
土器づくり	32人	時代衣装	20人
ガラス玉づくり	10人		

団体実施状況

活動室計	5,972人	活動室比率	17.50%
団体計	9,579人	団体比率	28.10%
体験者合計	15,551人	体験者比率	45.60%
来館者数	34,068人		

体験者数内訳合計と来館者数の比率

2 募 集 型

(1) 実技講座

原始・古代の技術にふれる単発のプログラムである。実施日はおもに第3土曜日とした。いずれも定員20名で募集し、応募者多数の場合は抽選とした。

別表の1は初めて2日連続で講座を開催した。ゆっくり作れる反面、遠方から来館される方には不便かもしれない。粘土を1kg100円で販売し、不足した場合はその場で販売した。3～7・

	内 容	実 施 日	参加者数
1	縄文土器づくり	4月19・20日	26人
2	縄文土器の野焼き	5月24日	15人
3	古代の琴づくり	6月21日	14人
4	カラムシから布をつくろう1	7月19日	17人
5	カラムシから布をつくろう2	8月23日	18人
6	弥生土器づくり	9月20・21日	28人
7	石包丁づくり	10月18日	9人
8	弥生土器の野焼き	10月25日	65人
9	カラムシから布をつくろう3	11月15日	14人
10	凧づくり	12月20日	14人
11	土偶・土面づくり	1月17日	12人
12	土偶・土面の野焼き	2月21日	32人
13	石器づくり	3月20日	21人

実技講座実施状況

9は新メニューである。3は杉板で形を作り、水糸を通して4弦琴を作成した。4・5・9は、4でカラムシを刈り芋引きをした。5で糸にした。9で布を作った。7は荒削りした粘板岩に穴をあけ、研ぎ出した。

(2) イベント

遺跡見学や年中行事にちなんだイベントを組んだ。鉄作り準備以外の実施日はおもに第1日曜日である。

昔話を聞こう

当館ボランティア及び「白河市語りの会」の協力を得て実施した。



昔話を聞こう

体験発掘ツアー

会津高田町教育委員会の協力を得て油田遺跡で実施した。奈良・平安時代の遺物包含層と古墳時代の住居跡を体験発掘した。

鉄づくり

「砂鉄選別」は、斜めにしたトレイの上に砂鉄を置き上から水を流した。「羽口づくり」は、木の棒を芯にして粘土を巻き付け、成形したら芯棒を抜き乾燥後焼成した。

「製鉄炉」は、原町市大船迫A遺跡15号製鉄炉をモデルに、野外展示製鉄炉の南側に新設した。村下に藤安将平氏をお迎えした。操業時間は15時間34分。投入した砂鉄は132.4kgで、木炭は279.1kgであった。できた鉄は34kgで鉄滓は60kg

であった。

弥生グルメ祭り

メニューは、「シカ鍋」、「サケ鍋」、「紫米のチマキ」、「赤米・紫米を炊いたもの」、「弥生風栗きんとん」などである。鍋を煮込んでいる間に餅つきとデザートを作った。

	内 容	実 施 日	参加者数
1	昔話を聞こう	5月4日	95人
2	鉄づくり(砂鉄選別)	8月13・14日	105人
3	体験発掘ツアー	9月7日	28人
4	鉄づくり(炉壁用粘土作成・羽口づくり)	9月13～15日	75人
5	鉄づくり(木炭小割)	9月20・21日	17人
6	鉄づくり	11月1・2日	305人
7	弥生グルメまつり	12月7日	22人
8	鉄づくり(報告会)	2月28日	46人

イベント実施状況

(3) まほろん探検隊

第3次探検隊総勢19名。毎月第2土曜日に実施した。活動内容は、弥生時代に関するもので、稲作や弥生土器・石庖丁を制作した。田植えは、奈良時代住居前の水田に紫米を植えた後、他の水田に紫米・赤米・餅米・ひとめぼれ等を植え、12時に終了した。

	内 容	実 施 日	参加者数
1	結団式・田植え	5月11・12日	10人
2	弥生土器づくり	6月8・9日	28人
3	田んぼの草取り	7月13日	9人
4	石器づくり1	8月10日	9人
5	石器づくり2	9月14日	17人
6	稲刈り	10月5・6日	13人
7	弥生土器の野焼き	10月25日	14人
8	お泊まり会・解団式	11月22・23日	25人

まほろん探検隊実施状況

3. 館外体験学習支援事業

通称「おでかけまほろん」という事業である。平成15年度は、4～7月の前期に4回、9～12月の後期に5回の計9回実施した。前期11団体希望中、抽選で4団体に決定し、後期は抽選なしで5団体に決定した。

	訪 問 先	学 年 ・ 科 目	内 容	実 施 日	参加者数
1	喜多方市立慶徳小学校	6年 社会	火おこし	4月18日	22人
2	郡山市立片平中学校	1年 社会	土器にさわる・勾玉づくり	5月7日	31人
3	田島町立荒海小学校	6年 社会	勾玉づくり・火おこし	5月8日	25人
4	福島市立吉井田公民館	小3年～小6年	勾玉づくり・土器にさわる	7月29日	28人
5	西郷養護学校(知的障害)	高等部1～3年 HR	勾玉づくり・火おこし授業参観	9月12日	24人
6	須賀川市立小塩江中	3年 選択社会	土器にさわる	9月19日	17人
7	郡山市立御代田小	6年 社会	土器にさわる・勾玉づくり・火おこし	9月26日	31人
8	二本松市立原瀬小	6年 総合的な学習の時間	火おこし・勾玉づくり	10月3日	19人
9	都路村立都路二中	3年 選択社会	火おこし・勾玉づくり・土器にさわる	12月2日	12人

おでかけまほろん実施状況

6 常設展事業

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- 「象徴展示」
- 「探してみよう福島の文化財」
- 「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- 「めぐみの森」
- 「暮らしのうつりかわり」
- 昭和40年代 江戸時代
- 鎌倉・室町時代 奈良・平安時代
- 古墳時代 弥生時代 縄文時代
- 旧石器時代 生と死

「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー まほろんビデオBOX
「遺跡を掘る」

サブコーナー 話題の遺跡

- 「みんなの研究ひろば」
- 「クイズ福島歴史発見」
- 「のぞいてみよう福島の遺産」
- 「しらかわ歴史名場面」

映像展示

「ふくしまの文化財 - いのちのかたち」

(2) 展示替え

平成15年度は、以下のコーナーにて大幅な展示替えを行った。内容及び展示資料は表の通りである。

遺跡を掘る - 話題の遺跡(「話題の遺跡」コーナー展示替え資料一覧表)

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
030401 ~ 030501	白河市内出土 「文字を記した土器」	白河市前桜岡遺跡出土「昌」墨書土器	8	白河市教育委員会
		白河市前桜岡遺跡出土「田上」墨書土器	1	
		白河市上根田ヶ入遺跡出土「大」墨書須恵器	1	
		白河市上根田ヶ入遺跡出土墨書土器 「大家」「下家」「大」「太」	4	
		白河市上根田ヶ入遺跡出土「大」刻書土器	1	
030501 ~ 040304	小高町浦尻貝塚出土資料紹介	縄文中期土器(大木8a、8b式)	4	小高町教育委員会
		土製品(土錘、土製ケツ状耳飾り、土製耳飾り、土偶、土製円板)	11	
		石器・石製品(石鏃、石錘、石製ケツ状耳飾り、凝灰岩製垂飾)	4	
		骨製品(エイ尾鏃、骨鏃、骨製垂飾、スズキエラ骨垂飾、シカ中手骨製垂飾、クジラ肋骨製刀状製品)	9	
		角・牙製品(イノシシ牙斧、不明角器、タヌキ牙垂飾、サメ歯垂飾、イノシシ牙加工品)	9	
		貝製品(貝錘、貝刃、サトウガイ製貝輪)	5	
		人・獣骨類(ヒト下顎骨、イノシシ下顎骨、イヌ、タヌキ下顎骨、オオカミ下顎骨、シカ角)	7	
		貝類(貝層断面剥ぎ取り、貝サンプル)	11	
		魚骨類(エイ、スズキ、マダイ、クロダイ、コチ、フグ、ヒラメ、カレイ)	9	
		未分類魚骨一括		
		その他(糞石、ドングリー一括)	2	
040305 ~ 040331	新指定重要文化財紹介 泉崎村関和久遺跡出土資料	軒丸瓦・丸瓦	5	館蔵
		軒平瓦・平瓦	3	
		焼けた初塊	1	
		円面硯・転用硯	14	
		緑釉陶器・灰釉陶器	11	
		「白」「厨」など墨書土器	7	
		土師器・須恵器	9	
		手捏ね土器	2	

「話題の遺跡」コーナー展示替え資料一覧

みんなの研究ひろば（「みんなの研究ひろば」
展示資料一覧）
しらかわ歴史名場面（「しらかわ歴史名場面」
展示資料一覧）

なお、本年度、まほろんマークのデザインを
手掛けていただいた郡山女子大学短期大学部デ
ザイン科の久家三夫教授より、まほろんマーク
を主題にした絵画作品を県教育委員会が受贈し

展示期間	タイトル	資料名	点数	氏名
030401～031008	菊地鐵夫さんの縄文時代石器研究	菊地鐵夫採集石器	1	菊地鐵夫 (福島市) 会社員
		研究ファイル	1	
		昭和29年11月17日新聞	1	
		菊地鐵夫氏紹介パネル	1	
030401～031008	渡部久子さんの縄文時代髪型研究	三島町荒屋敷遺跡土偶「髪型」	1	渡部久子 (会津若松市) 美容師
		埼玉県後谷遺跡土偶「髪型」	1	
		青森県三内丸山遺跡土偶「髪型」	1	
		渡部久子氏紹介パネル	1	
030401～031008	鈴木彩香さんの勾玉研究	勾玉製作実験資料	1	鈴木彩香 (白河市) 関辺小学校 5年生
		勾玉研究経過写真等	1	
		「阿武隈川でメノウをみつけよう」研究ファイル	1	
		採集鉱物等標本	1	
030401～040331	鈴木綾さんの古代米研究Part 2	「古代米をそだててみよう！～古代米作りに ちょうせん！」研究ファイル	1	鈴木綾 (浅川町) 里白石小学 校5年生
		稲束(H13栽培「むらさき米」)	1	
		籾(H13栽培「むらさき米」)	1	
		稲束(H14栽培「赤米」)	1	
		緑豆(H14栽培)	1	
		脱穀に使ったこきばし	1	
031009～050207	長沼城の立体地形模型製作	長沼城立体模型	1	喜多村あゆみ (長沼町) 長沼中学校1年生
		長沼城立体模型	1	喜多村直人 (長沼町) 長沼小学校5年生
		長沼城解説パネル	1	館蔵資料
		喜多村姉弟製作模型解説パネル	1	
031009～040207	鉄作りイベント記念展示	「鉄作りイベント記念」パネル	1	館蔵資料
		鑄造工程解説パネル	1	
		相馬市山田A遺跡獅子噛獣脚鑄型	3	
		同上の復元シリコン製品	2	
		新地町向田A遺跡獣脚鑄型	2	
		同上の復元シリコン製品	2	
		相馬市山田A遺跡器物鑄型	1	
		相馬市山田A遺跡風鐸鑄型	1	
		山田A遺跡モデル獣脚付き容器復元品(鑄物)	1	
		向田A遺跡モデル獣脚付き容器復元品(鑄物)	1	
		山田A遺跡モデル風鐸復元品(鑄物)	1	
		040208～040331	鉄作りイベント報告展示	
操業記録リーフレット	1			
経過報告パネル	1			
工程解説パネル	1			
鉄づくりに必要なもの(隈戸川産砂鉄)	1			
鉄づくりに必要なもの(大信村産粘土)	1			
鉄づくりに必要なもの(木炭-マツ炭)	1			
羽口復元品	2			
炉から排出された不純物(ノロ)	1			
炉壁(上方)	1			
炉壁(下方)	1			
でき上がった鉄(3分割)	1			

「みんなの研究ひろば」展示資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	氏名
030401 ~ 040122	古墳時代の祭祀遺跡 表郷村の「建鉾山」	三森遺跡採集石製模造品（紡錘車）	1	渡辺啓 （表郷村）
		三森遺跡採集石製模造品（白玉）	3連	
		三森遺跡採集石製模造品（勾玉）	4	
		三森遺跡採集石製模造品（斧形）	11	
		三森遺跡採集石製模造品（鎌形）	5	
		三森遺跡採集石製模造品（刀子形）	8	
		三森遺跡採集石製模造品（剣形）	74	
		三森遺跡採集石製模造品（有孔円板）	95	
		三森遺跡採集石製模造品（不整形有孔板）	35	
		三森遺跡出土 土師器（高杯・杯・甕など）	29	
		三森遺跡出土 須恵器（椀・高台付杯など）	4	表郷村教育 委員会
		三森遺跡出土 石製品（紡錘車・砥石）	2	
		三森遺跡出土 金属製品（鉄製品・銅滓など）	25	
		三森遺跡出土 石製模造品（馬形・剣形など）	67	
040123 ~ 040331	白河市の文化財「縄文時代」 （南堀切遺跡出土品）	三森遺跡採集 石製模造品（公民館保管分）	14	白河市教育 委員会
		南堀切遺跡出土 深鉢	7	
		南堀切遺跡出土 浅鉢	2	
		南堀切遺跡出土 有孔鍔付土器	1	
		南堀切遺跡出土 石冠	1	
		南堀切遺跡出土 石鏃	19	
		南堀切遺跡出土 石皿	1	
		南堀切遺跡出土 磨石	1	
		南堀切遺跡出土 コハク製玉	1	
南堀切遺跡出土 硬玉製玉	1			

「しらかわ歴史名場面」展示資料一覧



久家三夫教授より受贈の絵画

だが、次年度にプロムナードギャラリーに展示を予定している。

(3) 資料貸出

常設展示資料である模型・レプリカの貸出件

数は3件である。（「常設展示模型・レプリカ資料貸出一覧」）

(4) 展示資料の損壊等

常設展示は、来館者の観察しやすさと親近感を考慮し露出展示を多用している。そのため手が届く範囲に資料があり、損壊の危険性も孕んでいる。レプリカ・復元品の損壊は昨年度の発生率とほぼ同数である。団体の場合は少なく、土・日の一般来館者観覧後に損壊が発見されることが多い。しかしながら、状況から判断すると故意に損壊したものではなく、触れてみたいという興味からなされた偶発的な損壊がほとんどであると考えられる。今年度の発生比率は来館者ほぼ1,300人に1件という割合である。

めぐみの森

植物造形物の内、手の届く範囲にあるクマザサの折損が10件ほどあった。

資料名	貸出先	展覧会名	貸出期間
旧石器時代のシカ肉(3)	栃木県立博物館	『氷河時代の狩人たち』	030403 ~ 030706
象眼鐙(1) 大刀(1) 横笛(4) 木簡(1) 鉄斧(1) 鉄鎌(1) 鉄鍬(1) 網針(1) 各復元品	福島県立博物館	『発掘ふくしま3』	030626 ~ 030930
向田A・山田A遺跡出土獣脚鋳型 シリコン模型(4)	東北歴史博物館	『仙台藩の金と鉄』	030613 ~ 030930

常設展示模型・レプリカ資料貸出一覧

暮らしのうつりかわり

各時代の食物レプリカの接着部分を剥がし取る損壊が10件ほどあった。昭和40年代 コーナーのピールの入ったガラスコップを床に落としたりしく、破損した。奈良・平安時代の曲物に入ったカワエビを突かれることが多く、水表現部分が破損した。弥生時代のちまき状赤米の接着がはがされ、バラバラになった。盗難は無い。

暮らしをささえた道具たち

触れるコーナー展示中の復元品の内、石庖丁1点が折損した。

製鉄模型の樹木の折損及び下草や樹木の葉をむしられることが数件あった。

遺跡を掘る

発掘調査模型の折損が3件あった(人物及び犬小屋の屋根、物干竿)。折り取られた当該部分は模型ベース上にそのまま放置されていた。

(5) メンテナンス

平成15年度の常設展造形・造作物のメンテナンスはノムラテクノ(株)に委託して平成16年2月27日～3月30日に、AV機器メンテナンスは(株)エイブイセンターに委託して平成15年7月14日と12月15日の2回行った。内容は以下の通りである。なお、今年度は予算減額により展示什器のメンテナンスは行わなかった。

・造形物の清掃作業

「めぐみの森」の植物造作、「暮らしのうつりかわり」各時代ブースの清掃を行った。

・造形物の修復作業

前項(4)に記した損壊部分の内、模型やくマザサなどは館内で修復したが、コップ入りピール1点、カワエビ入り曲物1点、ちまき状赤米2点は委託先工場にて修復した。また、「研究復元製作」にて製作した「風鐸」を今後安全に展示するため、支持具2点を新たに製作した。

・展示機器のメンテナンス

映像展示用4面マルチビジョン、「探してみよう福島の文化財」モニター及びレーザーディスクのシステム制御の点検、調整を行った。特に重大な故障等は生じていない。



風鐸支持具

7 企画展事業

本年度の企画展事業のうち、企画展は館外施設での移動展を含め、合計5回の企画展を開催した。当館の特別展示室で開催した企画展は、特別展・指定文化財展・収蔵資料展の種類があり、季節毎順にそれぞれ「春」・「夏」・「秋」・「春」のてんじと呼んでいる。春のてんじは年度をまたがり、次年度5月まで開催した。

また、当事業に位置づけられている研究復元は古代の出土鋳型に基づく鋳造鉄製品の復元を行った。以下、当事業の概要について記載する。

1. まほろん夏のてんじ

「よみがえり - F [ふくしま] I [いばらき] T [とちぎ] の昔むかし - 」

平成15年7月19日～9月7日

趣旨 FIT (フィット) 構想のもと、隣接地域相互の交流・連携を深める様々な取り組み

種別	会場	会期	開催日数	観覧者数	備考
収蔵資料展	当館	H15・3・8～H15・5・18	41	5,195	前年度からの継続開催。日数・観覧者数は15年度分
特別展	当館	H15・7・12～H15・9・7	44	8,472	
指定文化財展	当館	H15・10・18～H15・11・24	33	4,228	
収蔵資料展	当館	H16・3・13～H16・5・16	16	1,337	次年度まで継続開催。観覧者数は15年度分
移動展	須賀川市立博物館	H15・7・12～H15・8・24	38	1,335	須賀川市立博物館と共催
		合計	172	20,567	

企画展の記録

を行っている福島・茨城・栃木の3県を対象に、地域に共通する埋蔵文化財を紹介した。展示では、これまでの考古学の成果をもとに、お墓に焦点を当て、3県の文化交流のルーツを概観していくとともに、茨城・栃木両県の代表的出土文化財を紹介した。

内容 縄文時代から平安時代に至るまでのお墓の変遷を示し、当時の人々の死生観を紹介することに努めた。また、3県の中央に位置する八溝山を中心とした古代の産金にも焦点を当てた。

1) 縄文からのよみがえり

縄文人のお墓、いのちの色、いのちの形

2) 弥生からのよみがえり

再葬のお墓

3) 古墳からのよみがえり

絵のあるお墓、はにわの顔

4) 仏のもとでよみがえり

蓮の華さく天の国、火葬の墓、葬られた人々

5) よみがえる八溝山

関連行事

座談会『考古学が解き明かす福島・茨城・栃木の交流 - 古代の八溝・阿武隈・那須山地は坂東・陸奥の壁か? -』

平成15年7月27日(日)午後1時~3時

福島県文化財センター白河館(まほろん)講堂

出席者: 福島県考古学会長 鈴木啓氏

茨城県考古学協会長 諸星政得氏

栃木県考古学会長 埴静夫氏

コーディネーター: 福島県文化財センター

白河館長 藤本強

3県の考古学界を代表する方々から、各県の古代史研究の成果をお話いただき、各地域を比較検討することで、古代の道や3県の交流・社会・文化的役割やその意義を浮き彫りにすることができた。聴講者には歴史性を鑑み、未来におけるF I T地域のあり方を考えるための好機になったと思われる。

ポスター・図録

企画展のポスター・リーフレット及び図録の表紙デザインは、郡山女子大学短期大学部生活工芸科久家三夫教授の指導の下、同科2年生の小林美菜さん、小山恵美さん、仲村菜美子さん、二瓶早織さんの4名にお願いした。博学連携の

新たな試みである。

また、今回の企画展図録は若年層にも親しむことができ、かつ理解可能な内容にすることに努めた。イラストを多く用い、解説文を平易な用語を用いて物語風に構成した点も新たな試みである。

成果と反省

期間中の入館者数は8,472人で1日の平均は193人/日だった。昨年度夏の企画展期間1日平均185人/日からは漸増傾向が窺える。開幕前1ヶ月の平均は123人/日、開幕後1ヶ月の平均は121人/日であり、少なからず入館者数増に本企画展が影響しているといえるであろう。

今回の展示は近接する茨城・栃木両県への「まほろん」広報・宣伝をねらいとしたが、文化施設への周知はしたものの、教育・行政機関への広報は予算の関係上、不十分であったことは否めない。今後、特に茨城・栃木の近接市町村教育・行政機関への広報活動は継続していくべきであろう。

3県の考古学会長の鼎談も初めての試みで、相互の学問的共通理解には重要な役割を果たしたが、会場の都合上収容人員に制限があったことが残念であった。



ポスター

地域	資 料 名	遺 跡 名	点数	所 蔵 者	
1 縄 文 か ら の よ み が え り	1) 縄文人のお墓				
	F	およそ3,000年前の女性の頭骨(レプリカ)	新地町三貫地貝塚	1	県立博物館
	F	復元された縄文女性の頭骨	新地町三貫地貝塚	1	県立博物館
	F	縄文中期埋葬人骨	いわき市大畑貝塚	1	いわき市教育委員会
	F	石鏃(やじり)の刺さった腰骨(レプリカ)	新地町三貫地貝塚	1	県立博物館
	F	三貫地貝塚22号人骨出土状況パネル	新地町三貫地貝塚	1	県立博物館
	T	復元された、およそ3,000年前の縄文犬「藤丸」	栃木県藤岡町藤岡神社遺跡	1	栃とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
	T	縄文犬頭骨写真パネル	栃木県藤岡町藤岡神社遺跡	1	藤岡町教育委員会
	2) いのちの色				
	F	硬玉製大珠	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡	1	まほろん
	F	硬玉製大珠	表郷村内松遺跡	1	菊地修一氏
	F	硬玉製大珠	石川町七郎内遺跡	1	まほろん
	F	硬玉製大珠	大信村町屋遺跡	1	大信村教育委員会
	F	硬玉製大珠	矢祭町我満平遺跡	1	青砥吉次氏
	F	硬玉製大珠	郡山市馬場中路遺跡	1	郡山市教育委員会
	T	硬玉製大珠	栃木県馬頭町岡平遺跡	1	鷲子山上神社(長倉樹氏)
	T	硬玉製大珠	栃木県小川町浄法寺遺跡	1	栃木県教育委員会
	T	硬玉製大珠	栃木県馬頭町古館遺跡	1	馬頭町郷土資料館
	T	硬玉製大珠	栃木県藤岡町後藤遺跡	1	栃木県立博物館
I	硬玉製大珠	茨城県大宮町坪井上遺跡	6	大宮町歴史民俗資料館	
I	硬玉製大珠	茨城県大宮町坪井上遺跡	1	引田春二氏(大宮町)	
I	硬玉製大珠	茨城県大宮町坪井上遺跡	1	野沢和弘氏(大宮町)	
3) いのちの形					
I	土偶	茨城県大宮町鷹巣諏訪台遺跡	1	大宮町歴史民俗資料館	
F	土偶	郡山市荒小路遺跡	1	まほろん	
F	土偶	三春町芝原A遺跡	1	まほろん	
I	土偶	茨城県ひたちなか市三反田蛸塚貝塚	1	ひたちなか市教育委員会	
T	土偶	栃木県藤岡町後藤遺跡	1	栃木県立博物館	
F	しゃがんだ姿の土偶	福島市上岡遺跡	1	福島市教育委員会	
T	しゃがんだ姿の土偶	栃木県藤岡町藤岡神社遺跡	1	藤岡町教育委員会	
T	イヌシ形土製品	栃木県藤岡町藤岡神社遺跡	1	藤岡町教育委員会	
F	イノシシ形土製品	福島市穴田遺跡	1	県立博物館	
F	イノシシ形土製品	福島市宮畑遺跡	1	福島市教育委員会	
T	イノシシ形土製品	栃木県藤岡町藤岡神社遺跡	4	藤岡町教育委員会	
F	石刀	船引町牡丹遺跡	1	船引町教育委員会	
F	石刀	飯館村羽白C遺跡	1	まほろん	
F	石棒	磐梯町角間遺跡	1	まほろん	
F	石棒	飯館村日向南遺跡	1	まほろん	
T	石棒	栃木県小山市乙女不動原北浦遺跡	4	小山市立博物館	
T	石棒	栃木県藤岡町藤岡神社遺跡	5	藤岡町教育委員会	
I	石棒	茨城県水戸市金洗沢遺跡	7	常陸考古学研究所	
I	石棒	茨城県山方町西野内古館遺跡	1	山方町歴史民俗資料館	
I	石棒	茨城県大宮町小野天神山遺跡	5	宇留野五郎氏(大宮町)	
F	イノシシ形の把手がついた土器片	富岡町本町西A遺跡	2	まほろん	
F	人面の把手がついた土器片	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡	1	まほろん	
F	獣面の把手がついた土器片	天栄村桑名邸遺跡	1	まほろん	
F	イノシシ形の把手がついた土器	飯館村上ノ台A遺跡	1	まほろん	
F	縄文中期の土器	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡	3	まほろん	
I	縄文中期の土器	茨城県大宮町坪井上遺跡	3	大宮町歴史民俗資料館	
T	縄文中期の土器	栃木県小川町浄法寺遺跡	1	栃木県教育委員会	
T	縄文中期の土器	栃木県益子町御霊前遺跡	2	栃木県教育委員会	
T	縄文中期の土器	栃木県小川町三輪仲町遺跡	1	栃木県教育委員会	
2 弥 生 か ら の よ み が え り	1) 弥生の人				
	F	あなが開けられた指の骨と歯	霊山町根古屋遺跡	16	霊山町教育委員会
	F	人骨が入っていた弥生土器	須賀川市牡丹平遺跡	1	須賀川市立博物館
	F	めずらしい弥生人の全身骨	須賀川市牡丹平遺跡	1	須賀川市立博物館
	2) 再葬のお墓				
	F	人面のついた弥生土器	石川町鳥内遺跡	1	石川町教育委員会
	T	人面のついた弥生土器(レプリカ)	栃木県宇都宮市野沢遺跡	1	栃木県立博物館
	T	人面のついた弥生土器(レプリカ)	栃木県佐野市出流原遺跡	1	栃木県立博物館
	F	人面付弥生土器(県重要文化財)	表郷村滝ノ森遺跡	1	表郷村教育委員会
	I	人面のついた弥生土器(レプリカ)	茨城県大宮町小野天神前遺跡	1	大宮町歴史民俗資料館
	T	人面のついた弥生土器	栃木県栃木市大塚古墳内遺跡	1	栃木県教育委員会
	F	再葬墓の弥生土器	石川町鳥内遺跡	5	石川町教育委員会
	I	再葬墓の弥生土器	茨城県大宮町小野天神前遺跡	2	茨城県歴史館
	T	再葬墓の弥生土器	栃木県佐野市出流原遺跡	3	佐野市郷土博物館
F	三貫地貝塚番外B人骨出土状況パネル	新地町三貫地貝塚	1	県立博物館	
F	鳥内遺跡再葬墓検出状況写真パネル	石川町鳥内遺跡	1	石川町教育委員会	
I	小野天神前遺跡再葬墓検出状況写真パネル	茨城県大宮町小野天神前遺跡	1	茨城県歴史館	
T	出流原遺跡再葬墓検出状況写真パネル	栃木県佐野市出流原遺跡	1	明治大学考古学博物館	
3 の よ み が え り	1) はにわの顔				
	F	楯を持った埴輪(県重要文化財)	泉崎村原山1号墳	1	県立博物館
	T	楯形の埴輪	栃木県芳賀町千ヶ窪古墳	1	芳賀町教育委員会
	F	鳥形の埴輪(県重要文化財)	泉崎村原山1号墳	1	県立博物館
T	鳥形の埴輪	栃木県宇都宮市塚山古墳	2	栃木県立博物館	

	地域	資 料 名	遺 跡 名	点数	所 蔵 者	
3	古墳からのよみがえり	2) 絵のあるお墓				
		I	虎塚古墳壁画写真パネル(国史跡)	茨城県ひたちなか市虎塚古墳	1	ひたちなか市教育委員会
		F	泉崎横穴壁画写真パネル(国史跡)	泉崎村泉崎横穴	1	泉崎村教育委員会
		F	中田横穴壁画写真パネル(国史跡)	いわき市中田横穴	1	いわき市教育委員会
		F	清戸迫横穴壁画写真パネル(国史跡)	双葉町清戸迫横穴	1	双葉町歴史民俗資料館
		F	羽山横穴壁画写真パネル(国史跡)	原平市羽山横穴	1	原平市立博物館
		3) ふたりの顔				
		F	古墳時代人の頭骨	会津若松市駒板新田 8号横穴墓	1	まほろん
		F	奈良時代人の頭骨	会津若松市駒板新田28号横穴墓	1	まほろん
		4	仏のよみがえり	1) 蓮の華咲く天の国		
T	増長天像			栃木県国分寺町下野国分寺跡	1	栃木県立博物館
T	蓮の華のもよみの瓦(複弁八葉蓮華文軒丸瓦)			栃木県南河内町下野薬師寺跡	1	南河内町教育委員会
T	3本線の平瓦(口ク口挽き重弧文軒平瓦)			栃木県南河内町下野薬師寺跡	1	南河内町教育委員会
I	蓮の華のもよみの瓦(複弁六葉蓮華文軒丸瓦)			茨城県北茨城市大津廃寺	1	佐波波地祇神社(伊藤昭武氏)
F	蓮の華のもよみの瓦(複弁六葉蓮華文軒丸瓦)			いわき市夏井廃寺跡	1	いわき市教育委員会
F	3本線の平瓦(口ク口挽き重弧文軒平瓦)			いわき市夏井廃寺跡	1	いわき市教育委員会
F	蓮の華のもよみの瓦(重要文化財)(口ク口挽き重弧文軒平瓦)			白河市借宿廃寺跡	1	白河市教育委員会
F	蓮の華のもよみの瓦(重要文化財)(複弁六葉蓮華文軒丸瓦)			白河市借宿廃寺跡	1	白河市教育委員会
F	蓮の華のもよみの瓦(複弁六葉蓮華文軒丸瓦)			白河市関和久遺跡	1	まほろん
F	3本線の平瓦(口ク口挽き重弧文軒平瓦)			白河市関和久遺跡	1	まほろん
F	蓮の華のもよみの瓦(複弁六葉蓮華文軒丸瓦)			郡山市清水台遺跡	1	阿部賢輔氏
2) 火葬のお墓						
F	骨蔵器(1号墓)蓋・身			相馬市武井E遺跡	2	まほろん
F	骨蔵器(1号墓)蓋・身			原平市鳥打沢A遺跡	2	まほろん
I	骨蔵器(蓋・身)			茨城県水戸市前原9号火葬墓	2	水戸市立博物館
I	骨蔵器(蓋・身)			茨城県水戸市前原4号火葬墓	2	水戸市立博物館
I	骨蔵器(蓋・身)			茨城県水戸市赤塚西団地 1火葬墓	2	水戸市立博物館
I	骨蔵器(蓋・身)			茨城県水戸市赤塚西団地 2火葬墓	2	水戸市立博物館
I	骨蔵器(蓋・身)			茨城県大和村大園玉	2	大和村教育委員会
T	骨蔵器(蓋・身)			栃木県芳賀町上野原北遺跡	2	芳賀町教育委員会
T	骨蔵器内焼骨			栃木県芳賀町上野原北遺跡	1	芳賀町教育委員会
T	骨蔵器(蓋・身)			栃木県高根沢町大野遺跡	2	栃木県教育委員会
T	焼骨			栃木県高根沢町大野遺跡	1	栃木県教育委員会
T	骨蔵器(蓋・身)			栃木県小山市寺野東遺跡	2	栃木県教育委員会
T	骨蔵器(外蓋)			栃木県小山市寺野東遺跡	1	栃木県教育委員会
T	墓誌と思われる鉄板			栃木県小山市寺野東遺跡	2	栃木県教育委員会
F	武井E遺跡・鳥打沢A遺跡火葬墓出土状況写真パネル			相馬市武井E遺跡・原平市鳥打沢A遺跡	1	まほろん
T	寺野東遺跡火葬墓出土状況写真パネル			栃木県小山市寺野東遺跡	1	栃木県教育委員会
3) 葬られた人々						
F	名前が刻まれた土器「丈部子玉足」			いわき市荒田目条里遺跡	1	いわき市教育委員会
F	「大」墨書土器			いわき市荒田目条里遺跡	1	いわき市教育委員会
F	名前の書かれた土器「多臣永野磨身代」			いわき市荒田目条里遺跡	1	いわき市教育委員会
F	文字の書かれた土器「丈部」			いわき市荒田目条里遺跡	1	いわき市教育委員会
F	文字の書かれた土器「丈主」			いわき市荒田目条里遺跡	1	いわき市教育委員会
F	文字の書かれた土器「丈(生?)」			いわき市荒田目条里遺跡	1	いわき市教育委員会
I	文字の書かれた土器「丈」			茨城県大宮町上村田小中遺跡	1	大宮町歴史民俗資料館
F	文字の書かれた土器「大」			白河市上根田ヶ入遺跡	1	白河市教育委員会
F	文字の書かれた土器「大家」			白河市上根田ヶ入遺跡	1	白河市教育委員会
I	文字の書かれた瓦「鳥取文功」			茨城県大宮町小野源氏平遺跡	1	大宮町歴史民俗資料館
I	名前の書かれた瓦「鳥部嶋」	茨城県大宮町小野源氏平遺跡	1	大宮町歴史民俗資料館		
T	名前の書かれた瓦「丈部臣」	栃木県上三川町上神主茂原遺跡	1	上三川町教育委員会		
T	名前の書かれた瓦「丈部臣」	栃木県上三川町上神主茂原遺跡	1	上三川町教育委員会		
T	名前の書かれた瓦「三枝部」	栃木県上三川町上神主茂原遺跡	1	上三川町教育委員会		
T	名前の書かれた瓦「雀部牧男」	栃木県上三川町上神主茂原遺跡	1	上三川町教育委員会		
T	名前の書かれた瓦「大麻古万呂」	栃木県上三川町上神主茂原遺跡	1	上三川町教育委員会		
T	名前の書かれた瓦「宇瀬部男」	栃木県上三川町上神主茂原遺跡	1	上三川町教育委員会		
T	名前の書かれた瓦「酒部得足」	栃木県上三川町上神主茂原遺跡	1	上三川町教育委員会		
T	名前の書かれた瓦「神主」	栃木県上三川町上神主茂原遺跡	1	上三川町教育委員会		
F	名前の書かれた木簡「丈部庭足」	いわき市荒田目条里遺跡9号木簡	1	いわき市教育委員会		
T	那須国造碑(レプリカ)	栃木県小川町	1	栃木県立博物館		
F	名前の書かれた木簡「丈部裳吉」	いわき市荒田目条里遺跡10号木簡	1	いわき市教育委員会		
F	名前の書かれた木簡「里刀自」	いわき市荒田目条里遺跡2号木簡	1	いわき市教育委員会		
T	名前の書かれた木簡「丈部濱足」(レプリカ)	栃木県栃木市下野国府跡	1	栃木県立博物館		
F	名前の書かれた木簡「丈部有安追料」	いわき市荒田目条里遺跡20号木簡	1	いわき市教育委員会		
F	名前の書かれた木簡「丈部」	いわき市根岸遺跡3号木簡	1	いわき市教育委員会		
F	銅印「丈龍私印」(レプリカ)	天栄村志志山遺跡	1	福島県立博物館		
I	「丈永私印」(8/11まで)(県指定有形文化財)	茨城県大宮町上村田小中遺跡	1	茨城県立歴史館		
I	「丈」烙印(8/11から)	茨城県大宮町上村田小中遺跡	1	大宮町歴史民俗資料館		
I	八溝山写真パネル	航空写真	1	福島県立博物館		
5	える八溝山よみがえり	砂金(昭和になってから採られたもの)		八溝山の金	1	福島県立博物館
		T	漆紙文書(「五段沙金」と書かれている)(レプリカ)	栃木県下野国府跡	1	栃木県立なす風土記の丘資料館
		T	砂金	(参考資料)	1	栃木県立なす風土記の丘資料館
		F	平安時代の八溝産金に関する古い記録	『続日本後記』承和3(836)年産金記事等抜粋	1	製作
		T	「奈良時代に日本で初めて金が発見されたときの記録」パネル	『東大寺要録』天平19(747)年産金記事等抜粋	1	製作

展示資料一覧

2. まほろん秋のてんじ

「ふくしまの重要文化財 - 考古資料 奈良・平安時代編 -」

平成15年10月18日～11月24日

趣旨 昨年度からシリーズ展示としてスタートし、今年度は第2回目となる。「国指定重要文化財(考古資料)」及び「県指定重要文化財(考古資料)」に指定されている県内資料を時代ごとに紹介していく企画展である。また、併せて同時代の「国指定史跡」及び「県指定史跡」も写真パネルで紹介していく。

今回は奈良時代・平安時代に関わる県内の資料を対象として構成した。展示資料は表のとおりである。そのうちの主なものを挙げると、松野千光寺経塚出土品は東北地方最古の経塚出土品であり、流麿寺跡出土金銀象嵌鉄剣は全国的に類例のない資料であり、上ノ原経塚出土経典は朱書きのもので、県内で現存する平安時代の経典2例のうちの一つである。

展示構成は、この時代の重要文化財指定物件の多くが仏教関係の資料に限られるので、それらを展示室壁面に沿って地域ごとに配置した。展示室南壁に中通り地方北部の遺跡から南部の遺跡出土指定文化財を展示し、北壁には会津地方といわき地方のものを展示した。展示室中央と西壁中央には、独立ハイケース3台にそれぞれ、今回の展示品の中でも特に目を引く、「二彩浄瓶及び附指定資料」、「銅製丈龍私印」、「流麿寺跡出土金銀象嵌鉄剣」を展示した。また、遺跡の写真パネルは、各指定文化財資料に関連づけて、適宜、配置した。

期間中の入館者は4,228人で、1日の平均は128人だった。



ポスター

指定種別	遺跡名	時代	市町村
県指定史跡	湯野西原麿寺跡	平安	福島市
県指定史跡	木幡山経塚群	平安	東和町
国指定史跡	上人壇麿寺跡	奈良・平安	須賀川市
国指定史跡	米山寺経塚群	平安	須賀川市
国指定史跡	関和久官衙遺跡	奈良・平安	泉崎村
県指定史跡	借宿麿寺跡	奈良・平安	白河市
国指定史跡	白河関跡	奈良・平安	白河市
県指定史跡	流の麿堂跡	平安	棚倉町
国指定史跡	慧日寺跡	平安	磐梯町
県指定史跡	大戸窯跡群	奈良・平安	会津若松市
県指定史跡	横手麿寺跡	平安	鹿島町
県指定史跡	泉麿寺跡	奈良・平安	原町市
国指定史跡	観音堂石仏	平安	小高町
国指定史跡	薬師堂石仏 附 阿弥陀堂石仏	平安	小高町
県指定史跡	夏井麿寺塔跡	平安	いわき市
国指定史跡	白水阿弥陀堂境域	平安	いわき市

パネル展示資料一覧

指定種別	市町村	指定名称	主要資料	所有者	時代	点数
県指定重要文化財	原町市	泉麿寺跡出土瓦	軒丸瓦, 軒平瓦	原町市	奈良・平安	22点
県指定重要文化財	いわき市	上ノ原経塚出土品	紙本経, 木製経軸, 銅鑄製経筒	いわき市	平安	25点
参考	桑折町	平沢寺経筒複製品		福島県立博物館		1点
参考	福島市	陶製経筒複製品		福島県立博物館		1点
県指定重要文化財	福島市	福島信夫山出土品	銅鏡	福島県	平安	4点
国指定重要文化財	郡山市	二彩浄瓶 附 須恵器 1箇・黒色土器 1箇		個人	奈良	3点
県指定重要文化財	須賀川市	上人壇麿寺跡出土品	軒丸瓦, 軒平瓦, 瓦塔破片	須賀川市	奈良・平安	39点
国指定重要文化財	須賀川市	岩代米山寺経塚出土品	銅経筒, 陶製外筒, 銅鏡	寺社	平安	19点
県指定重要文化財	天栄村	銅製丈龍私印		天栄村	平安	1点
県指定重要文化財	白河市	借宿麿寺跡出土品	軒丸瓦, 軒平瓦, 刻印瓦	白河市	奈良	17点
県指定重要文化財	棚倉町	流麿寺跡出土金銀象嵌鉄剣		棚倉町	平安	1点
県指定重要文化財	喜多方市	松野千光寺経塚出土品	銅鑄製経筒, 銅板製経筒, 銅鑄製五鈹鈴	喜多方市	平安	33点

実物展示資料一覧

3. まほろん春のてんじ

「新編陸奥国風土記 - 卷之三 安積郡 - 」

平成16年3月13日～5月19日

旧安積郡内の収蔵資料を使用して、時代ごとに展示し、失われた陸奥国風土記を復元する試みとして、春のてんじ「新編陸奥国風土記 - 卷之三 安積郡 - 」を実施した。



ポスター

a アサカのはじまり

郡山市弥明遺跡の旧石器時代の石器13点を展示した。

b 川辺の縄文集落

敷石住居跡や配石遺構などの石のモニュメントが見つかった三春ダム建設に伴う縄文時代の仲平遺跡・越田和遺跡・柴原A遺跡出土の縄文土器や住居の写真パネルを展示した。

越田和遺跡では、「じょうもんハウジングプラザ」として、様々な形態の住居跡を写真パネルで展示した。

また、柴原A遺跡では、実寸大の敷石住居の模型を作成し、特別展示室の床面に敷いた。

また、郡山市の谷田川沿いにある荒小路遺跡から、漁労具や土偶、縄文土器、石器等暮らし

に関わりの深い遺物を展示した。

c 弥生の祖霊像

郡山市徳定遺跡からみつかったお墓に入れられたと思われる人面付壺型土器の破片を展示した。

d 古墳時代のムラとまつり

古墳時代の大規模な集落である郡山市正直A遺跡からの出土品と写真パネルを展示した。

集落のようすについては、主要な出土品と上空から撮影した写真パネルを展示し、祭祀遺構については、1号祭祀遺構出土の土器と石製模造品と出土状況パネルを展示し、まつりのようすを再現した。

e 中近世のあぶくま

城跡の資料として、郡山市の木村城跡と小野町猪久保城跡の城跡の出土遺物と写真パネルを展示した。

木村城跡では、遺構の写真と出土遺物で戦国末期の田村氏の出城のようすを展示した。

猪久保城跡では、室町前半期の初源的な山城のようすを陶器類の出土遺物と写真パネルで展示した。

他には、近世の土坑墓の資料として小野町本飯豊遺跡の写真パネルと副葬品の土人形、キセル、数珠を展示した。

f 体験コーナー

柴原A遺跡の縮尺模型小型のパズルを作成し、来館者に楽しんでもらった。

所在地	遺跡名	主な展示品
郡山市	弥明遺跡	ナイフ形石器
三春町	越田和遺跡	縄文土器
	柴原A遺跡	縄文土器 敷石住居跡
郡山市	荒小路遺跡	縄文土器 土錘
	徳定遺跡	人面付壺形土器
	正直A遺跡	石製模造品 土師器
	木村館跡	陶磁器
小野町	猪久保城跡	陶磁器
	本飯豊遺跡	土人形
	鍛冶久保遺跡	窯道具

主な展示遺跡と展示品一覧

4. 研究復元

研究復元の目的

まほろんでは、遺跡で確認できた遺構や、出土した遺物を対象とし、古代の技術や素材をできる限り検討して、今に甦らせるという研究復元事業がある。これまでに、横穴墓から出土した種々の副葬品（馬具・刀剣・容器類等）や、古墳出土の青銅鏡などを復元してきた。

平成14年度からは、「古代の鉄」をメインテーマとし、福島県浜通り地方北部の製鉄遺跡から出土した鋳型を基に、梵鐘や獣脚付き容器、風鐸などの鋳鉄製品の復元を行っている。

平成15年度は、新地町向田A遺跡出土の梵鐘鋳型からの鉄製梵鐘の製作と、砂鉄から鉄を作る「鉄づくり」イベントを行った。

鋳型から復元した鉄製鋳物製品

鋳型を出土した遺跡の概要

福島県浜通り地方の北側、相双地区の新地町から原町市にかけては、日本有数の古代（奈良・平安時代）製鉄遺跡が確認・調査されている。

それらの製鉄遺跡からは、1次製錬炉（砂鉄を原料とし、鉄を作ること）や、燃料である木炭を生成する木炭窯が多く認められているが、新地町向田A遺跡では、多種・多様な鋳型が出土し、本遺跡が平安時代の鋳造遺跡であることが判明した。鋳型から判明した鋳造製品は、獣脚付き容器・梵鐘等であり、いずれも鉄製品を鋳込んだものである。

これらの製品は現存していないが、鋳型から製品を復元することにより、古代の鋳造技術を推測し、さらに金属加工に関するこれまでの研究を発展・進化させ、本県の



鋳込みのようす

古代史研究の象徴ともいえる製鉄技術について追究するために実施した。

復元の過程

今回の復元では、古代の梵鐘の「音」をその目的とした。梵鐘は青銅で製作するのが一般的であるが、今回のように鉄製の梵鐘は非常に珍しいものである。復元製作した梵鐘は3点である。

1点目は、砂鉄原料の銑鉄を使用して鋳込んだが、鋳込み時にカーボンボイリング現象（鉄中の炭素が酸素と結びついて起こす現象）が起き、鋳込みは失敗し、製品には穴があいてしまった。

2点目（2回目）は、原料の素材割合を変えて鋳込みを行った。作業は無事に成功したが、表面に僅かであるが“あばた”状の痕跡が見られた。復元目的であった音も1分間もの長さにわたり余韻が残るほどの出来映えであった。

3点目（3回目）は、砂鉄原料の銑鉄9：鉄鉱石原料の銑鉄1で鋳込みを行い、今回はあばた状の痕跡も全くなく、見事に成功した。ただ、音は全くでず、「ガンッ」という叩いた音のみとなってしまった。

今回の復元を通して、古代の鋳造技術の高さに驚嘆した。今後、これらの鋳鉄製品がどこで使用されたものなのか、使用用途はどんなものであったのか等、検討し続けていきたい。



復元した鉄製梵鐘

「鉄づくり」イベント

鉄づくりイベントは平成15年11月1・2日に実施した。

今回復元の対象とした製鉄炉は、原町市にある大船迫A遺跡15号製鉄炉である。この炉は箱

形炉であり、平安時代9世紀前半に機能し、廃絶されたものである。

原料は、福島県西白河郡大信村の隈戸川で採取した砂鉄を、磁選して使用した。燃料は、岩手県産のマツと、一部栃木県那須郡塩原村産のクヌギ・コナラを使用した。炉材粘土は、砂鉄と同様の大信村産の通称“山砂”を使用した。

今回の操業では、粘土で炉を構築し、踏みふいごで送風し、まず砂鉄から鉄を作ってみることを目的とした。鉄づくりに向けての準備作業としては、砂鉄選別と羽口づくり、木炭の小割作業を行った。これらは全て来館者に参加していただき、実施した。

- ・砂鉄選別（平成15年8月13・14日実施：8 / 13 70人参加 8 / 14 35人参加）
- ・羽口づくり（平成15年9月13～15日実施：9 / 13 33人参加 9 / 14 28人参加 9 / 15 14人参加）



羽口づくり

- ・木炭小割（平成15年9月20～21日実施：9 / 20 5人参加 9 / 21 12人参加）

鉄づくりイベントの操業は、1日午前11：00頃よりはじめ、2日の午前2：32に終了した。操業時間は15時間36分であった。砂鉄・木炭の投入量及び産出鉄の重量・排滓量は以下の通りである。

砂鉄投入量：132.3kg

木炭投入量：279.1kg

産出鉄：34.0kg

（大きさ長82cm、幅31cm、厚7～11cm）

鉄滓量：流出滓60.2kg

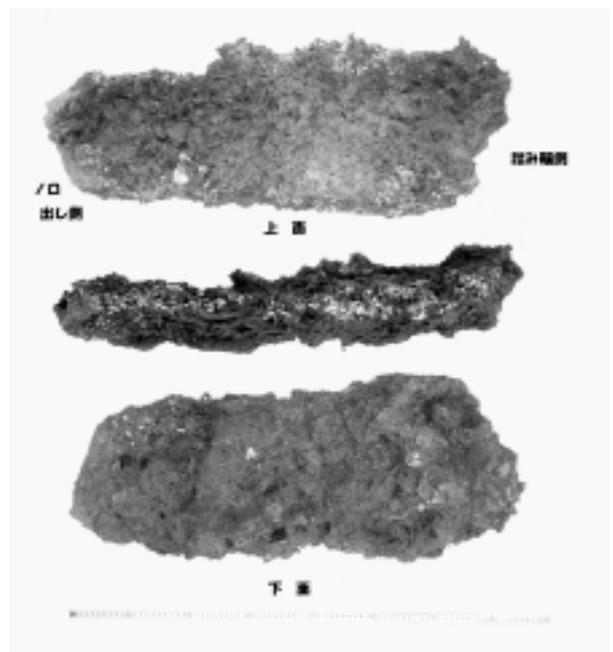
炉内滓：1.8kg

含鉄鉄滓2.0kg（鉄塊と鉄滓が混じり合ったもの。ハンマーで叩くと鉄と分かれる。）

その後、2月28日に「鉄づくり」イベント報告会を当館講堂で行い146人の参加を得た。



操業のようす



できた鉄（ケラ）

8 ボランティア運営事業

1. 登 録

当館ボランティアの登録は、登録前のオリエンテーションで活動内容の概要を説明し、一般研修を受講し、登録を希望する者を対象にしている。登録希望者は館長が毎年4月1日付けで、まほろんボランティアとして認定している。平成15年度の登録ボランティアは、計52名である。

平成15年度ボランティアについての年齢構成等は別表のとおりである。

平成15年度登録者数	52名
平成15年度登録最年少年齢	16歳
平成15年度登録最年長年齢	75歳
平成15年度登録者平均年齢	52.3歳
平成16年度新規登録者対象登録前オリエンテーション参加者	9名
平成16年度新規登録者対象一般研修受講者数	9名
平成16年度新規登録申込受付期間	平成15年 9月3日(火) ～ 10月26日(日)
登録前オリエンテーション実施日	平成15年 11月9日(日)

ボランティア登録状況

2. 活動内容

まほろんボランティアの平成15年における活動内容は以下のとおりである。

屋内及び野外展示施設の案内・解説
 屋内及び野外で行う体験学習の指導
 収蔵資料の整理補助
 体験学習器材の製作
 講座・講演会開催時における運営支援
 古代の畑の管理などの環境整備の支援
 この他、ボランティアの自主活動として以下の

グループが結成され、月1回以上の活動が行われている。

土器づくりグループ
 アンギン編みグループ
 まほろんオリエンテーショングループ
 植物案内ツアーグループ
 見どころ案内ツアーグループ
 収蔵資料の修復・復元グループ

さらに、臨時的に活動するグループとして、

開館記念イベントの企画・実施を行うまほろんイベント実行委員会がある。

3. ボランティア受け入れ体制

当館のボランティア活動は、交通費や昼食などを支給しない無償ボランティアを原則としている。

しかし、ボランティア活動実施中の事故等を補償するボランティア保険に加入し、その掛け金(1名あたり500円)は当館で負担し、さらにボランティア用ユニフォーム、休憩室用お茶代、ボランティア研修費用等に関しても当館で負担して、活動環境の整備を図っている。

また、野外及び館内活動中の休憩及びボランティア相互の交流の場として利用できるようにボランティアルームを体験学習館及び本館内に設置している。さらに、本館内のボランティアルームには、活動配置表や活動記録簿を設置して活動の拠点としている。

4. ボランティア担当者の設置

教育普及課に正・副2名の、研修課、総務管理課に各1名のボランティア担当者を置いている。おもには、教育普及課の担当者が当館の窓口として、ボランティアのスケジュールの調整を行うほか、ボランティアの意見・ニーズの集約などの業務を行った。

5. ボランティア研修

ボランティア活動の充実のためにボランティ

種別	研修	研 修 項 目	平成16年度新規登録者対象研修実施日
一般 研 修	1	館内施設概要	15年11月9日(日)
	2	植物観察ツアー	15年11月9日(日)
	3	アンギン編み	15年12月21日(日)
	4	まほろんオリエンテーション	16年1月10日(土)
	5	勾玉づくり	16年1月10日(土)
	6	土器づくり	16年1月18日(日)
	7	防災と救急の基礎知識 接遇の基本と実践	16年2月8日(日)
	8	見どころ案内ツアー	16年2月22日(日)
	9	土器の拓本取り	16年2月22日(日)
	10	火おこし	16年3月7日(日)
	11	考古資料の取り扱い方	16年3月7日(日)
館外 視 修	1	福島県立博物館「発掘ふくしま3」見学	15年9月23日
館外 代 表 者 研 修	1	第5回全国博物館ボランティア協議会 (独立行政法人国立科学博物館)	16年1月26～27日
	2	群馬県北群馬郡榛東村耳飾り館「こども考古学クラブ」 活動見学、群馬県群馬郡群馬町かみつけの里博物館	16年3月13～14日

ボランティア研修一覧



救命救急研修

アを対象とする研修については、全員を対象にした一般研修と希望者を対象にした特別研修及び代表者館外研修の3種類の研修を実施した。実施した研修については、別表のとおりである。なお、新規ボランティアの一般研修では、その講師を登録済みの既ボランティアにお願いした研修もある。

6. 開館2周年記念イベント

「まほろん2周年だよ!ボランティア2003」

ボランティアが自ら実行委員会を立ち上げ、平成14年7月20日(日)に記念イベントを行った。イベントに必要な資金は、フリーマーケットへの出店で確保した。イベント当日は親子連れを中心に600名を超える来館者があった。イベントの内容は以下のとおりである。

縄文人バトル - ことばを取り返せ -

むかしのおもちゃで遊ぼう

(お手玉、折り紙、独楽回し、タガ回し)



「まほろん」よさこい

竹とんぼを作ろう
ぞうり飛ばし・槍投げ

昔話と紙芝居

子供みこし

まほろん「よさこい」

(白河市みさか元気クラブ)

発掘こぼれ話(当館学芸員に発掘調査のこぼれ話を語ってもらう)



子供みこし



紙芝居



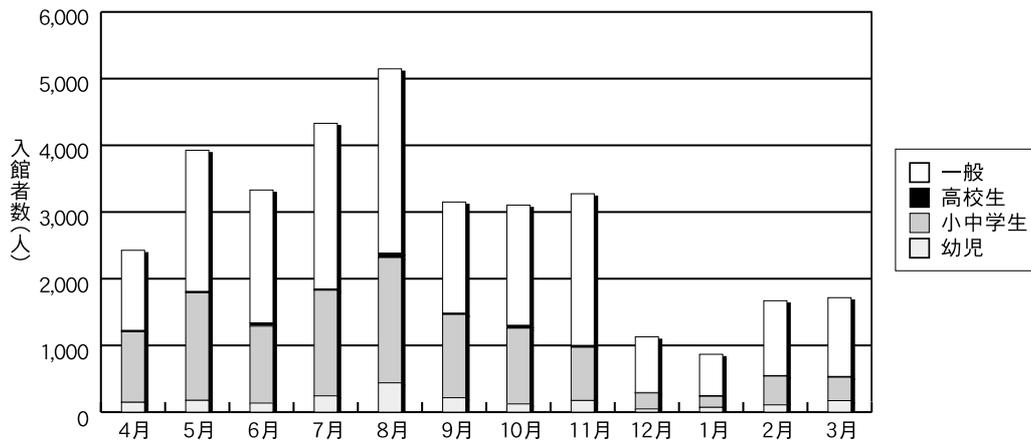
槍投げ

第5章 平成15年度入館者統計

当館は入館無料の公開施設であることから、徴収観覧料の区別から正確な入館者数等をつかみ得ない。そこで、来館者には入館時に居住地（県内は市町村名、県外は県名のみ）・年齢層・人数に関してのみ記帳の協力を得て、できる限り利用者の実態を把握するよう努めている。ここで掲載する利用状況のデータは、入館者の記帳を基にしたデータから作成した統計である。

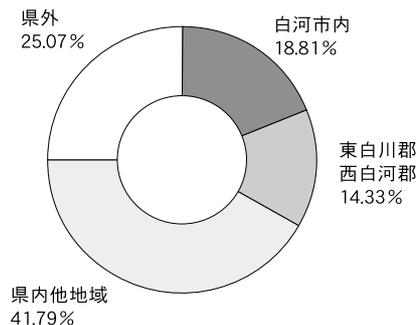
1 月別入館者数

	開館日数	幼 児	小中学生	高 校 生	一 般	入館者合計	月別構成比	日 平 均
4月	25	147	1,057	19	1,203	2,426	7.12	97
5月	27	176	1,614	17	2,119	3,926	11.52	145
6月	25	136	1,153	48	1,993	3,330	9.77	133
7月	27	244	1,584	18	2,484	4,330	12.71	160
8月	27	439	1,879	66	2,763	5,147	15.11	191
9月	24	216	1,249	16	1,669	3,150	9.25	131
10月	27	123	1,136	40	1,805	3,104	9.11	115
11月	26	174	799	25	2,276	3,274	9.61	126
12月	22	48	240	5	835	1,128	3.31	51
1月	23	71	167	6	623	867	2.54	38
2月	24	109	432	6	1,123	1,670	4.90	70
3月	26	172	352	9	1,183	1,716	5.04	66
合 計	303日	2,055人	11,662人	275人	20,076人	34,068人	100.0%	112人

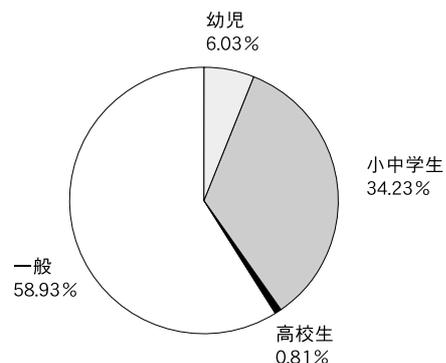


2 区分別利用状況

地域別構成比



年齢別構成比



3 団体利用状況

団 体			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学 校 関 係	幼稚園・保育園	園 数	0	0	1	1	2	1	2	1	0	0	0	0	8
		入館者数	0	0	25	29	61	54	82	41	0	0	0	0	292
	小 学 校	学 校 数	9	16	12	6	10	11	9	3	5	2	5	2	90
		入館者数	473	760	550	295	605	806	560	175	167	54	298	42	4,785
	中 学 校	学 校 数	3	5	1	7	9	4	2	0	0	1	1	0	33
		入館者数	162	293	64	518	575	173	13	0	0	20	20	0	1,838
	高 等 学 校	学 校 数	0	0	1	1	3	0	1	1	0	0	0	0	7
		入館者数	0	0	43	12	22	0	35	7	0	0	0	0	119
	養 護 学 校	学 校 数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
		入館者数	0	0	0	33	0	0	36	0	0	0	0	0	69
	大 学	学 校 数	1	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	7
		入館者数	10	154	0	41	41	44	0	40	0	48	0	0	378
	小中高PTA (保護者のみ)	学 校 数	0	2	3	3	3	1	3	2	0	1	0	0	18
		入館者数	0	34	110	69	69	20	60	86	0	17	0	0	465
小中高PTA (親子レク等)	学 校 数	0	0	3	1	1	0	0	2	0	0	0	0	7	
	入館者数	0	0	174	18	45	0	0	179	0	0	0	0	416	
生 涯 学 習 関 係	研 究 会	会 数	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	5
		入館者数	0	20	30	21	0	0	0	0	0	0	24	0	95
	子 ど も 会	会 数	1	0	3	5	3	1	2	1	0	0	1	1	18
		入館者数	25	0	74	155	140	25	45	53	0	0	18	40	575
	公 民 館 等	館 数	1	5	5	5	4	6	10	6	0	1	0	2	45
		入館者数	33	211	179	185	127	275	305	157	0	29	0	62	1,563
社 会 福 祉 関 係	福 祉 施 設 デイケアサービス	団 体 数	1	3	2	0	1	2	0	1	1	0	1	2	14
		入館者数	25	38	36	0	77	71	0	20	20	0	26	40	353
文 化 団 体 関 係	資 料 館 等	館 数	1	1	1	0	0	1	1	1	2	0	1	1	10
		入館者数	6	14	42	0	0	24	20	4	76	0	13	32	231
	歴 史 研 究	団 体 数	1	0	1	1	2	1	2	1	0	0	0	0	9
		入館者数	54	0	30	24	52	40	70	12	0	0	0	0	282
行 政 機 関 関 係	県・市町村・ 教委・審議会等	団 体 数	1	1	5	5	4	3	5	11	3	0	1	2	41
		入館者数	41	10	209	106	94	56	147	232	125	0	36	31	1,087
そ の 他	そ の 他	団 体 数	3	15	14	25	30	10	23	33	12	7	12	12	196
		入館者数	47	338	422	523	786	197	533	811	257	142	281	245	4,582
合 計	団 体 数	22	50	53	63	73	42	61	64	23	13	24	22	510	
	団 体 入 館 者 数	876	1,872	1,988	2,029	2,694	1,785	1,906	1,817	645	310	716	492	17,130	
総 入 館 者 数			2,426	3,926	3,330	4,330	5,147	3,150	3,104	3,274	1,128	867	1,670	1,716	34,068
団 体 利 用 者 の 割 合 (%)			36.11%	47.68%	59.70%	46.86%	52.34%	56.67%	61.40%	55.50%	57.18%	35.76%	42.87%	28.67%	50.28%

第6章 まほろんの施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館
 所在地：〒961-0835 福島県白河市白坂字一里段86番地
 設置者：福島県
 管理機関：財団法人福島県文化振興事業団
 開館：平成13年7月15日

建築
 設計：株式会社佐藤総合計画
 工事監理：福島県土木部都市局営繕課・株式会社佐藤総合計画
 施工
 建築工事：佐藤工業株式会社・株式会社兼子組特定建設工事共同企業体
 機械設備工事：山田設備工業株式会社
 電気設備工事：福島電設株式会社

展示
 設計監理：日精株式会社
 屋内展示製作：株式会社乃村工藝社
 屋外展示製作：株式会社トリアド工房

1 建築概要

敷地面積：51,827.51㎡
 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,999.955㎡
 体験学習館 133.627㎡
 延床面積：本館棟 2,400.046㎡
 収蔵庫棟 2,999.769㎡
 計 5,399.815㎡
 体験学習館 92.71㎡

構造：(本館棟)鉄筋コンクリート造、(収蔵庫棟)鉄骨造、(体験学習館)木造

規模：地上1階(最高高さ10.29m、軒高8.79m、階高4m)
 駐車台数：一般駐車場91台(身障者用4台)・大型車駐車場10台・臨時駐車場40台・職員駐車場21台・駐輪場28台

地域地区：都市計画区域内・無指定

主な外部仕上げ
 (本館棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、陸屋根：アスファルト防水コンクリート押さえ、外壁：コンクリート打放し一部はつり仕上げフッ素系シラン塗装、建具：アルミサッシ電解着色、外構：インターロッキングブロック(環境整備工事)
 (収蔵庫棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：コンクリート打放しフッ素系シラン塗装・押出し成形セメント板フッ素系シラン塗装、建具：スチール製建具
 (体験学習館)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：粒状陶石塗、建具：アルミサッシ電解着色

主な内部仕上げ
 (エントランス・プロムナードギャラリー)床：フローリング・花崗岩JB、壁：コンクリート打放し仕上げフッ素系シラン塗装・木練付不燃パネル、天井：木練付不燃パネル
 (事務室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板
 (常設展示室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板・一部溶接金網メラニン焼付け二重天井化粧石膏ボード
 (特別展示室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板
 (体験活動室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(講堂)床：フローリング、壁：腰壁/グラスウール吸音材+集材染色塗装、上壁/岩綿吸音板、天井：岩綿吸音板
 (研修室・実習室)床：ビニルシート、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音
 (収蔵庫棟)床：塗り床、壁：木繊維セメント板・セメント成型板、天井：木繊維セメント板
 (体験学習館)床：合板張り一部畳敷き、壁：合板オイル拭き、天井：合板オイル拭き

2 設備概要

電気設備：受電方式/高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量/400KVA、予備電源/非常発電50KVA、非常証明設備・誘導灯設備：建築基準法に基づいて設置、放送設備：非常放送と兼用・出力240W、電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備、電話設備：電子交換外線4回線(ISDN)内線55回線、監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停、制御及び計測監視

防犯・防災設備

防犯設備：赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置し、監視制御システムと併用

ITV設備：ITVを必要箇所に設置し、常設展示室、特別展示室、エントランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視

火災報知設備：受信盤P型1級19回線(自火報)4回線(防排煙設備)、煙感知機66箇所、熱感知機107箇所、ガス漏れ検知器6箇所

防災設備：消火/屋内・屋外消火栓、HFCガス消火方式 排煙/自然排煙

放火扉設備：5回線、雷警報設備：襲雷警報器(コロナーム)、避雷針設備

空調設備

空調方式：一般系統/ガスエンジン空冷HPマルチパッケ-ジ方式(一部空冷HP)+静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統/単一ダクト(空冷冷専パッケ-ジ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルタ-ユニット)方式、常設展示室・特別展示室/単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式、熱源：都市ガス(ガス種別：プロパン)

衛生設備

給排水設備：給水/水道直結方式、給湯/局所式、排水/汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流(最終樹でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流、雨水；側溝放流
多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

昇降機設備

荷物用リフター2基

一般収蔵庫(油圧式 最大積載量1,000kg)

搬入口(油圧式 最大積載量1,000kg)

工期 着工 平成11年7月12日

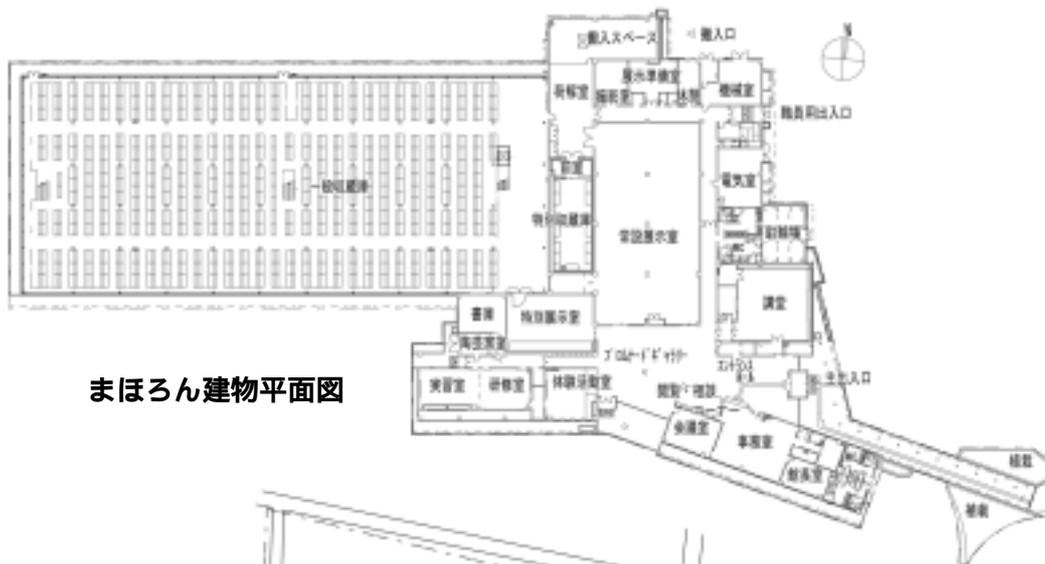
完成 平成12年10月16日

建築事業費 2,690,848千円

公有財産購入費 222,095千円

その他の経費 387,682千円

合計 3,300,625千円



まほろん建物平面図



まほろん施設配置図

(単位：㎡)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分 2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・ プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9				

主要諸室面積表

第7章 まほろんの条例・規則

1 条 例

(平成13年3月27日福島県条例第43号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 白河館は、白河市白坂字一里段86番地に置く。

(業務)

第3条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- (2) 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- (3) 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- (4) 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- (5) 文化財に関する調査研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- (6) 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(遵守事項)

第4条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- (3) 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- (4) 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。
- (5) 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第5条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命じることができる。

- (1) 前条の規定に違反した者
- (2) 白河館内の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- (3) 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(使用料の不徴収)

第6条 白河館の使用料は、徴収しない。

(管理の委託)

第7条 教育委員会は、白河館の設置の目的を効果的に達成するため、民法(明治29年法律第89号)第34条に規定する法人であって知事が指定するものに対し、その管理を委託することができる。

2 前項の規定による管理の委託は、同項の知事が指定する法人と教育委員会との協議により、次に掲げる事項を定めて行うものとする。

- (1) 委託する施設の名称、位置、構造及び規模

(2) 委託の年月日

(3) 管理の方法

(4) 委託の条件

(5) 前各号に掲げるもののほか、委託に関し必要な事項

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

2 条例施行規則

(平成13年3月27日福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第1条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。
- (2) 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- (3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで。

2 福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 白河館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(文化財等の特別利用)

第3条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例(平成13年福島県条例第43号)の施行の日から施行する。

まほろんの利用案内

- 開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合その翌日）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年未年始（12月28日～1月4日）
- 入館料 ・ 無料
- 交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から福島交通バス（まほろん・市民球場・白坂行き）まほろんバス停下車
・ JRバス（棚倉行き）南湖公園下車25分
・ 東北自動車道白河I.C.から車で20分

その他 ・ 屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いすも用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報2004

平成17年3月31日発行

編集 財団法人福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 白河市白坂字一里段86
<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
発行 福島県教育委員会
〒960-8670 福島市杉妻町2-16
印刷 タヂヒ印刷

表紙デザイン 久家光夫